

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2002-107658

(43)Date of publication of application : 10.04.2002

(51)Int.CI.

G02B 27/02
 G02B 5/04
 G02B 5/32
 G02B 17/08
 G02B 25/00
 G09F 9/00
 H04N 5/225
 H04N 5/64
 H04N 7/18

(21)Application number : 2000-302873

(22)Date of filing : 29.09.2000

(71)Applicant : OLYMPUS OPTICAL CO LTD

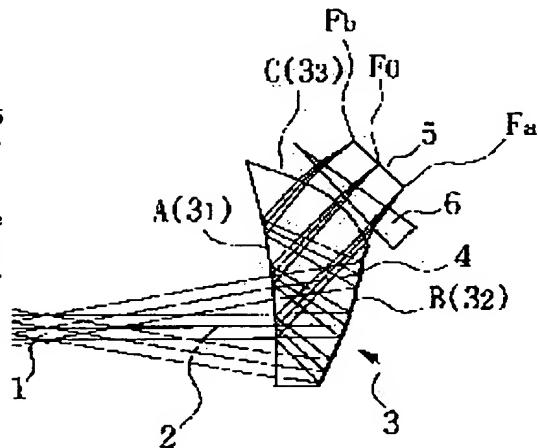
(72)Inventor : NAKAMURA TORU
TAKAYAMA TETSUEI

(54) PICTURE OBSERVATION OPTICAL SYSTEM

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a picture observation optical system which can be made small to such an extent that it can be used for a cellular phone or a portable information terminal as a picture display device, and where chromatic aberration of magnification is restrained to attain high definition and a wide viewing angle.

SOLUTION: This optical system is provided with a picture display element 5 and an eyepiece optical system by which a picture formed by the element 5 is guided to be observed as a virtual image without forming an intermediate image at the center position of an observer's eyeball. The eyepiece optical system is constituted by folding an optical axis by using a reflection surface in order to make the optical system compact, so that the optical axis exists on one plane and the optical system is formed symmetrically with the plane, and has a prism 3 having an incident surface 33, plural curved reflection surfaces 31 and 32 and an emitting surface 31, and is equipped with a volume hologram (HOE) 4 on the reflection surface 32.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2002-107658

(P2002-107658A)

(43)公開日 平成14年4月10日 (2002.4.10)

(51)Int.Cl.⁷
G 0 2 B 27/02
5/04
5/32
17/08
25/00

識別記号

F I
G 0 2 B 27/02
5/04
5/32
17/08
25/00

テ-マ-ト(参考)
Z 2 H 0 4 2
Z 2 H 0 4 9
2 H 0 8 7
A 5 C 0 2 2
A 5 C 0 5 4

審査請求 未請求 請求項の数3 O L (全31頁) 最終頁に続く

(21)出願番号 特願2000-302873(P2000-302873)

(22)出願日 平成12年9月29日 (2000.9.29)

(71)出願人 000000376

オリンパス光学工業株式会社

東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目43番2号

(72)発明者 中村 透

東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目43番2号 オリ
ンバス光学工業株式会社内

(72)発明者 武山 哲英

東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目43番2号 オリ
ンバス光学工業株式会社内

(74)代理人 100065824

弁理士 楠原 泰司 (外1名)

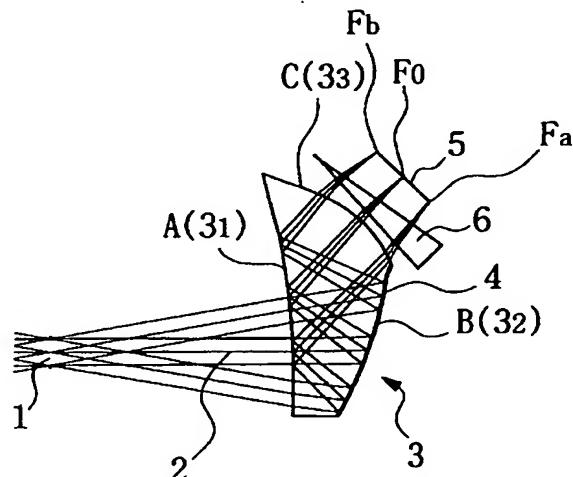
最終頁に続く

(54)【発明の名称】 画像観察光学系

(57)【要約】

【課題】画像表示装置として携帯電話や携帯情報端末に用いることができる程度に小型化することができ、かつ、倍率色収差を抑えて高精細化、広画角化することができる画像観察光学系を提供する。

【解決手段】画像表示素子5と、画像表示素子5により形成された画像を虚像として観察できるように観察者の眼球中心位置に中間像を形成することなく導く接眼光学系とを有し、接眼光学系が、該光学系をコンパクト化するため反射面を用いて光軸を折り曲げて構成されていて、光軸が一つの平面内にあり、光学系が該平面に対称に形成され、入射面3₁と複数の曲面反射面3₁、3₂と射出面3₃とを持つプリズム3を有し、反射面3₁に体積型ホログラム(HOE)4を備えている。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 画像表示素子と、前記画像表示素子により形成された画像を虚像として観察できるように観察者の眼球中心位置に中間像を形成することなく導く接眼光学系とを有し、前記接眼光学系が、該光学系をコンパクト化するために反射面を用いて光軸を折り曲げて構成されていて、光軸が一つの平面内にあり、光学系が該平面に対称に形成され、入射面と複数の曲面反射面と射出面とを持つ光学素*

$$-1 < \phi_y (HOE, F_a) / \phi_y (Total) < 2 \quad \dots \dots (1)$$

$$-1 < \phi_y (HOE, F_b) / \phi_y (Total) < 1 \quad \dots \dots (2)$$

ただし、 $\phi_y (HOE, F_a)$ はHOEの像位置F_aにおけるy方向のパワー、 $\phi_y (HOE, F_b)$ はHOEの像位置F_bにおけるy方向のパワー、 $\phi_y (Total)$ は全系のy方向のパワーである。

【請求項3】 2面以上の反射面を持つプリズム光学系において、前記HOEがパワーの対称面を1面又は2面有し、該パワーの対称面が前記HOEを備えている基板形状の対称面と一致することを特徴とする請求項1又は2に記載の画像観察光学系。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、画像観察光学系に関し、特に、観察者の頭部又は顔面に保持することができ、また、携帯電話や携帯情報端末に付加することができる画像表示装置に用いる画像観察光学系に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 近年、個人が大画面の画像を楽しむことを目的として、画像表示装置、特に、頭部や顔面に装着するタイプの画像表示装置の開発が盛んになされている。また、近年、携帯電話の普及や携帯情報端末の普及に伴い、携帯電話や携帯情報端末の画像や文字データを大画面で見たいというニーズが高まっている。画像表示装置に用いる従来の画像観察光学系としては、特開平7-333551号や特開平8-234137号に記載のものがある。これらのものは、反射作用を有する面に例えば、アナモルフィック面やトーリック面、さらには自由曲面などの回転非対称な面形状を持つプリズムを使用して、像の歪み、像面歪曲、非点収差を補正している。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかし、上記のような※

$$-1 < \phi_y (HOE, F_a) / \phi_y (Total) < 2 \quad \dots \dots (1)$$

$$-1 < \phi_y (HOE, F_b) / \phi_y (Total) < 1 \quad \dots \dots (2)$$

ただし、 $\phi_y (HOE, F_a)$ はHOEの像位置F_aにおけるy方向のパワー、 $\phi_y (HOE, F_b)$ はHOEの像位置F_bにおけるy方向のパワー、 $\phi_y (Total)$ は全系のy方向のパワーである。

【0007】 また、本発明は、2面以上の反射面を持つプリズム光学系において、前記HOEがパワーの対称面

* 子を有し、少なくとも1つの反射面に体積型ホログラム(HOE)を備えたことを特徴とする画像観察光学系。

【請求項2】 正の屈折力を有するプリズムとHOEを有し、かつ、対称面と画像表示面との交線における線分の中心の像位置をF₀、線分の両端の像位置のうち倍率色収差の大きい方の像位置をF_b、小さい方の像位置をF_aとしたとき、次の条件式(1)、(2)を同時に満足することを特徴とする請求項1に記載の画像観察光学系。

$-1 < \phi_y (HOE, F_a) / \phi_y (Total) < 2 \quad \dots \dots (1)$

$-1 < \phi_y (HOE, F_b) / \phi_y (Total) < 1 \quad \dots \dots (2)$

※ プリズムを用いて画像表示装置を高精細化、広画角化すると、プリズム自体の倍率色収差が大きくなり、結像性能が劣化してしまうという問題がある。

【0004】 そこで、本発明は、画像表示装置として携帯電話や携帯情報端末に用いることができる程度に小型化することができ、かつ、倍率色収差を抑えて高精細化、広画角化することができる画像観察光学系を提供することを目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段及び作用】 本発明による画像観察光学系は、画像表示素子と、前記画像表示素子により形成された画像を虚像として観察できるように観察者の眼球中心位置に中間像を形成することなく導く接眼光学系とを有し、前記接眼光学系が、該光学系をコンパクト化するために反射面を用いて光軸を折り曲げて構成されていて、光軸が一つの平面内にあり、光学系が該平面に対称に形成され、入射面と複数の曲面反射面と射出面とを持つ光学素子を有し、少なくとも1つの反射面に体積型ホログラム(HOE)を備えたことを特徴としている。ここで、好ましくは、光学素子の屈折率が1.7を超えてよい。素子の屈折率が高くなると、同じパワーを得たときに、収差の発生量が小さくなるからである。

【0006】 また、本発明においては、正の屈折力を有するプリズムとHOEを有し、かつ、対称面と画像表示面との交線における線分の中心の像位置をF₀、線分の両端の像位置のうちHOEが無いときには倍率色収差の大きい方の像位置をF_b、小さい方の像位置をF_aとしたとき、次の条件式(1)、(2)を同時に満足することが好ましい。

$$-1 < \phi_y (HOE, F_a) / \phi_y (Total) < 2 \quad \dots \dots (1)$$

$$-1 < \phi_y (HOE, F_b) / \phi_y (Total) < 1 \quad \dots \dots (2)$$

を1面又は2面有し、該パワーの対称面が前記HOEを備えている基板形状の対称面と一致することが好ましい。

【0008】 本発明では、接眼光学系として、反射面を用いて光軸を折り曲げた光学系を構成することでコンパクト化を達成している。この光学系としては、正の屈折

力を持つプリズムを用いる。

【0009】上述のように、プリズムを用いて高精細化、高画角化すると、倍率色収差が大きくなるという問題がある。本件出願人は、プリズムより発生する倍率色収差を、それとは逆の倍率色収差の作用を回折素子に持たせてキャンセルさせることを着想した。そして、先ず、回折素子としてレリーフ型ホログラム（DOE）を用いた、プリズムより発生する倍率色収差の補正について検討した。

【0010】回折素子は、透明な基板の上に殆ど厚みを持つことなく設けられており、例えば、図33に示すように、その面内におけるパワーの分布が部位により異なっている。そして回折素子のパワーの変化に伴い倍率色収差も変化するので、例えば、プリズムの所定の面上にプリズムの倍率色収差とは逆向きに倍率色収差が生じるようなパワー分布の回折素子を設ければ、光学系を大型化することなく、プリズムの倍率色収差を補正することが可能である。また、回折素子をプリズムに一体化すれば、プリズムと回折素子との位置ずれが生じない。

【0011】回折素子には、レリーフ型ホログラム（DOE）と体積型ホログラム（HOE）とがある。DOEは、入射角選択性や波長選択性が小さく、特定の入射角、波長の光を回折して必要次数光として結像させるが、それ以外の入射角、波長の光についても、回折効率が低下した状態で回折し、不要次数光として結像させてしまうという性質を有する。一方、HOEは入射角選択性や波長選択性が高く、特定の波長、入射角の光のみを回折して必要次数光として結像させ、それ以外の光については殆どを0次光として透過させ、不要次数光を結像させ難いという特性を有している。

【0012】量産性を考えると、DOEは、旋盤加工で作成するのが効率的である。この場合には、DOEは、必然的に回転対称となる。このため、プリズムが図34に示すような自由曲面など回転非対称な面を有している場合に生じる倍率色収差を補正することができない。また、レリーフ型ホログラムを用いた場合には、必要とする回折次数光以外に、不要次数光（0次光、2次光）が発生し、画像の悪化をもたらし観察の妨げになる。

【0013】そこで、本件出願人は、DOEの代わりに反射型のHOEを用いた、プリズムより生じる倍率色収差の補正について検討した。HOEは、図35(a)に示すように、パワー分布を回転非対称に構成することができるので、自由曲面を持つプリズムに対して、そのプリズムより生ずる倍率色収差を打ち消す作用が働くように構成することが可能である。また、一般にHOEを反射面に用いた場合、不要次数光としては、0次光のみしか発生しない。しかも、例えば、図1に示すような観察者の眼とは反対側に位置する面にHOEを配置すれば、わずかに発生する0次光が観察者の眼には届かない方向へ放

出されるので、観察の妨げにならない。このため、本発明のように回折素子としてHOEを用いれば、不要次数光による像ブレの発生を防ぐことができ、鮮明な観察画像を得ることができる。

【0014】このHOEを、図35(a), (b)に示すように、プリズムのある光学面B（例えば反射面）に貼る。ここで、貼るとは、シート状のHOEを光学系の面に接着剤などで貼る場合はもちろんのこと、光学系の面の表面に機械的なキザミをつけたり、表面の屈折率を縞状に変化させる場合も含む。例えば、図35(a)の場合において、軸L1に対し、光学面Bの面形状が対称になっているものとする。これをHOEのパワーについて考えると、図35(c)に示すように、横からみると、HOEのパワーは上下非対称となり、図35(d)に示すように、上からみるとHOEのパワーは左右対称になる。これに対し旋盤で加工したDOEの場合は、横からみても、上からみても、対称になるので、回転非対称（即ち、上下、左右の少なくともいずれかが対称でない）面を有する光学部材の倍率色収差を補正することができない。

【0015】例えば、図34に示すような、自由曲面成分で偏心収差を補正していた偏心プリズムを備えた画像観察光学系において、その面にカラーHOEを配置する。その際に、図1に示すように、HOEを設けるプリズム3の基板面（B面）の形状を球面とし、偏心収差を主に補正していた面（B面）の自由曲面成分をカラーHOEのXY多項式パワー成分、A面の自由曲面成分、C面の自由曲面成分の3箇所に負担させる。これにより、従来どおりのプリズムの偏心補正能力を維持することができ、かつ、HOEのパワーにより、プリズムの持つ面の形状より発生する倍率色収差を補正することが可能となる。

【0016】なお、一つのHOEにプリズムの倍率色収差補正のためのパワーを大きく負担せると、却って大きな倍率色収差の発生を招くことになる。そこで、図1に示すように、両面がほぼ平面で、かつ平行でない面からなる光学素子5（くさび型プリズム、ウェッジ型プリズム）を配置して、HOE面で分散された光束をくさび型プリズムの持つ分光作用でキャンセルして、光学系全体で倍率色収差を補正するようにするといい。なお、一つのHOEにプリズムの倍率色収差補正のためのパワーを大きく負担させすぎると、くさび型プリズムの持つ分光作用を介しても倍率色収差を十分にキャンセルすることができない。

【0017】ここで、HOEのパワーについて図を用いて説明する。瞳の中心から、各像位置に至る光線を考え（これを主光線と呼ぶ）、この光線位置における各面のパワーを計算する。例えば、図1に示す画像観察光学系では、光軸が、一つの平面内にあり、プリズム光学系は、この平面に対称になっている。ここで、本発明の説明においては、対称面に平行（即ち、図1においては紙

面に平行)な方向をY方向、各面のローカル座標面上でこれと直交する方向をX方向とする。なお、パワーは、方位角に依存するので、X方向のパワーと、Y方向のパワーとを別々に計算する。

【0018】また、本発明の説明においては、対称面と、画像表示面の交線において、線分の中心の像位置をF0、線分の両端の像位置をFa, Fbとする。HOEが無いと、偏心光学系の影響で、FaとFbの倍率色収差の出方に非対称性が出る。この時、倍率色収差が大き*

$$-1 < \phi_y(HOE, Fa) / \phi_y(Total) < 2 \quad \dots(1)$$

$$-1 < \phi_y(HOE, Fb) / \phi_y(Total) < 1 \quad \dots(2)$$

ただし、 $\phi_y(HOE, Fa)$ はHOEの像位置Faにおけるy方向のパワー、 $\phi_y(HOE, Fb)$ はHOEの像位置Fbにおけるy方向のパワー、 $\phi_y(Total)$ は全系のy方向のパワーである。

【0020】条件式(1), (2)の下限を超えると、プリズムで発生する倍率色収差を補正するHOEの倍率色収差※

$$0 < \phi_y(HOE, Fa) / \phi_y(Total) < 1 \quad \dots(3)$$

$$-0.5 < \phi_y(HOE, Fb) / \phi_y(Total) < 0.5 \quad \dots(4)$$

ただし、 $\phi_y(HOE, Fa)$ はHOEの像位置Faにおけるy方向のパワー、 $\phi_y(HOE, Fb)$ はHOEの像位置Fbにおけるy方向のパワー、 $\phi_y(Total)$ は全系のy方向のパワーである。

$$0.005 < \phi_y(HOE, Fa) / \phi_y(Total) < 0.4 \quad \dots(5)$$

$$-0.2 < \phi_y(HOE, Fb) / \phi_y(Total) < 0.2 \quad \dots(6)$$

ただし、 $\phi_y(HOE, Fa)$ はHOEの像位置Faにおけるy方向のパワー、 $\phi_y(HOE, Fb)$ はHOEの像位置Fbにおけるy方向のパワー、 $\phi_y(Total)$ は全系のy方向のパワーである。

【0023】また、光線の有効径内における領域でのHOEのX方向のパワーがすべて正(局所領域におけるパワーが負にならないこと)であることが望ましい。プリズム全体が正のパワーを持つため、HOEのパワーとしても全面正のパワーを持つことが倍率色収差を補正する上で望ましいからである。

【0024】なお、本発明は、正の屈折力を持つプリズムが反射面を1面以上持ち、HOEが前記プリズムの面上に形成されているとよい。

【0025】また、本発明は、正の屈折力を持つプリズム

$$|\phi_y(HOE, F0) / \phi_y(Total)| \leq 0.25 \quad \dots(7)$$

ただし、 $\phi_y(HOE, F0)$ はHOEの像位置F0におけるy方向のパワー、 $\phi_y(Total)$ は全系のy方向のパワーである。

【0027】本発明のように、HOEを2枚設ければ、第2のHOEを、第1のHOEが発生する倍率色収差とは逆向きの倍率色収差が発生するように構成することが◆

$$|\phi_y(HOE, F0) / \phi_y(Total)| \leq 0.10 \quad \dots(8)$$

ただし、 $\phi_y(HOE, F0)$ はHOEの像位置F0におけるy方向のパワー、 $\phi_y(Total)$ は全系のy方向のパワーである。

$$|\phi_y(HOE, F0) / \phi_y(Total)| \leq 0.025 \quad \dots(9)$$

*い方の像位置をFbとし、倍率色収差が小さい方の像位置をFaとする。

【0019】HOEを設けた面では、基板の面の形状によるパワーと、HOEによるパワーとを分けて考える。HOE反射面におけるHOEだけが持つパワーを各像位置での主光線の位置で計算して $\phi_y(HOE, Fb)$, $\phi_y(HOE, Fa)$, を計算する。その場合、次の条件式(1), (2)を同時に満たすことが好ましい。

$$\dots(1)$$

$$\dots(2)$$

※補正能力が不足し、倍率色収差が補正不足になる。条件式(1), (2)の上限を超えると、プリズムで発生する倍率色収差を補正するHOEの倍率色収差補正能力が大きくなりすぎ、倍率色収差が補正過剰になる。

【0021】また、この場合、次の条件式(3), (4)を満足するとより好ましい。

$$\dots(3)$$

$$\dots(4)$$

【0022】さらに、この場合、次の条件式(5), (6)を満足するとより一層好ましい。

$$\dots(5)$$

$$\dots(6)$$

☆ムが、反射面を1面以上持ち、HOEが、画像表示素子と観察者の眼との間に、回転非対称な倍率の色収差を補正するように回転非対称なパワーで形成されているといい。

【0026】HOEのパワーが大きくなると、それに応じて倍率色収差発生量が増加する傾向にある。そして、プリズム光学系で発生する倍率色収差が大きい場合、それを補正するためのパワーを1枚のHOEに負担させると、HOEにより発生する倍率色収差が大きくなってしまう。そこで、本発明は、正の屈折力を持つプリズムを有し、かつ、画像表示素子から射出瞳位置までの間に、少なくとも2枚のHOEを用い、次の条件式(7)を満足することが好ましい。

40◆でき、第2のHOEが持つ倍率色収差の作用で、第1のHOEが持つ倍率色収差をキャンセルすることができる。

【0028】また、この場合、次の条件式(8)を満足するとより好ましい。

* 【0029】さらに、この場合、次の条件式(9)を満足するとより一層好ましい。

*

ただし、 ϕ_y (HOE, F0) は HOE の像位置 F0 における y 方向のパワー、 ϕ_y (Total) は全系の y 方向のパワーである。

【0030】また、HOE により発生する倍率色収差を補正するために、正の屈折力を持つプリズムと、HOE に加えて、さらにクサビ型プリズム（ウェッジプリズム）のような、両面がほぼ平面で、かつ平行でない面からなる光学素子を加えて構成してもよい。なお、上述のように、クサビ型プリズムの代わりに、HOE をさらに設けて複数のHOE でプリズムの倍率色収差補正のためのパワーを分担させれば、クサビ型プリズムを設ける場合に比べて、省スペース、軽量化を図ることができる。なお、その場合、複数のHOE のいずれもプリズムの面に貼りつけば、より省スペース化を図ることができると。

【0031】なお、本発明では、前記正の屈折力を有するプリズムが偏心プリズムであり、前記画像表示素子から射出された光束をプリズム内に入射させる入射面と、前記光束をプリズム内で反射させる複数の反射面と、前記光束をプリズム外に射出させる射出面とを有している。

【0032】なお、逆光線追跡で物点中心を通り、瞳の中心を通過して像面の中心に到達する光線を軸上主光線としたとき、少なくとも 1 つの反射面が軸上主光線に対して偏心していないと、軸上主光線の入射光線と反射光線が同一の光路を通過することとなり、軸上主光線が観察光学系内で遮断されてしまう。その結果、中心部が遮光された光束のみで像を形成することになり、中心が暗くなったり、中心では全く像を結ばなくなったりしてしまう。

【0033】また、パワーを付けた反射面を軸上主光線に対して偏心させた場合、本発明で用いられるプリズムを構成する面のうち、少なくとも 1 つの面は回転非対称*

* な面であることが望ましい。その中でも、特に、プリズム部材の少なくとも 1 つの反射面を回転非対称面にすることが収差補正上は好ましい。また、本発明で用いられるHOEのパワー分布は、回転非対称である。なお、HOEを設けるベース面は、シリンドリカル面、球面、非球面、アナモルフィック面、トーリック面、対称面を 1 面のみ有する面、対称自由曲面形状のいずれの形状に形成されていてもよい。

【0034】また、本発明で用いる回転非対称面は、アナモルフィック面、トーリック面、対称面を 1 面のみ有する対称自由曲面で構成することができる。なお、好ましくは、対称面を 1 面のみ有する自由曲面で構成するとよい。

【0035】なお、本発明の画像観察光学系においては、軸上主光線を、射出瞳中心を通り画像表示素子の中心に到達する光線で定義する。そして、軸上主光線が射出瞳の中心から最初の光学系の面に交差するまでの直線によって定義される光軸を Z 軸と定義し、また、この Z 軸と直交し、かつ、第 1 群のプリズム部材を構成する各面の偏心面内の軸を Y 軸と定義し、さらに、Z 軸と直交し、かつ、各面のローカル座標面上で Y 軸と直交する軸を X 軸と定義する。また、射出瞳の中心を本発明の観察光学系における座標系の原点とする。また、本発明においては、上述のように射出瞳から画像表示素子に向かう逆光線追跡で面番号をつけることとし、軸上主光線が射出瞳から画像表示素子に至る方向を Z 軸の正方向、画像表示素子に向かう Y 軸の方向を Y 軸の正方向、Y 軸と Z 軸と右手系を構成する X 軸の方向を X 軸の正方向とそれぞれ定義する。ここで、本発明で使用する自由曲面は、次式(10)により定義する。なお、その定義式の Z 軸が自由曲面の軸となる。

【0036】

66

$$Z = c r^2 / [1 + \sqrt{(1 - (1+k) c^2 r^2)}] + \sum_{j=2} C_j X^j Y^n$$

ただし、(10)式の第 1 項は球面項、第 2 項は自由曲面項である。また球面項中、C は頂点の曲率、k はコニック定数(円錐定数)、 $r = \sqrt{X^2 + Y^2}$ である。

【0037】自由曲面項は次式(11)のように展開することができる。

68

$$\sum_{j=2} C_j X^n Y^n$$

$$\begin{aligned}
 &= C_2 X + C_3 Y \\
 &+ C_4 X^2 + C_5 XY + C_6 Y^2 \\
 &+ C_7 X^3 + C_8 X^2 Y + C_9 XY^2 + C_{10} Y^3 \\
 &+ C_{11} X^4 + C_{12} X^3 Y + C_{13} X^2 Y^2 + C_{14} XY^3 + C_{15} Y^4 \\
 &+ C_{16} X^5 + C_{17} X^4 Y + C_{18} X^3 Y^2 + C_{19} X^2 Y^3 + C_{20} XY^4 \\
 &\quad + C_{21} Y^5 \\
 &+ C_{22} X^6 + C_{23} X^5 Y + C_{24} X^4 Y^2 + C_{25} X^3 Y^3 + C_{26} X^2 Y^4 \\
 &\quad + C_{27} XY^5 + C_{28} Y^6 \\
 &+ C_{29} X^7 + C_{30} X^6 Y + C_{31} X^5 Y^2 + C_{32} X^4 Y^3 + C_{33} X^3 Y^4 \\
 &\quad + C_{34} X^2 Y^5 + C_{35} XY^6 + C_{36} Y^7 \\
 &\dots
 \end{aligned}$$

……(11)

ただし、 C_j (j は 2 以上の整数) は係数である。
 【0038】上記自由曲面は、一般的には、X-Z 面、Y-Z 面ともに対称面を持つことはないが、本発明では、X の奇数次項を全て 0 にすることによって、Y-Z 面と平行な対称面が 1 つだけ存在する自由曲面となる。このような自由曲面は、例えば、上記定義式(11)においては、 $C_2, C_3, C_5, C_7, C_9, C_{11}, C_{13}, C_{15}, C_{16}, C_{18}, C_{20}, C_{22}, C_{24}, C_{26}, C_{28}, C_{30}, C_{32}, C_{34}, C_{36}, \dots$ の各項の係数を 0 にすることによって達成することが可能である。

【0039】また、Y の奇数次項を全て 0 にすることによって、X-Z 面と平行な対称面が 1 つだけ存在する自由曲面となる。このような自由曲面は、例えば、上記定義式(11)においては、 $C_1, C_3, C_5, C_7, C_9, C_{11}, C_{13}, C_{15}, C_{17}, C_{19}, C_{21}, C_{23}, C_{25}, C_{27}, C_{29}, C_{31}, C_{33}, C_{35}, \dots$ の各項の係数を 0 にすることによって達成することが可能である。

* 【0040】また上記対称面の方向の何れか一方を対称面とし、それに対応する方向の偏心、例えば、Y-Z 面と平行な対称面に対して光学系の偏心方向は Y 軸方向に、X-Z 面と平行な対称面に対しては光学系の偏心方向は X 軸方向にすることで、偏心により発生する回転非対称な収差を効果的に補正しながら同時に製作性も向上させることができるとなる。

【0041】また、上記定義式(10)は、上述のように 1 つの例として示したものであり、上記定義式(10)以外の他のいかなる定義式に対しても同様の効果が得られるとは言うまでもない。

【0042】本発明において、ブリズムに設けられた反射面の形状を、唯一の対称面を 1 面のみ有した対称自由曲面形状にて構成することができる。

【0043】また、アナモルフィック面の形状は次の式(12)により定義される。なお、面形状の原点を通り、光学面に垂直な直線がアナモルフィック面の軸となる。

$$\begin{aligned}
 Z = & (Cx \cdot X^2 + Cy \cdot Y^2) / [1 + \{1 - (1 + Kx) Cx^2 \cdot X^2 \\
 & - (1 + Ky) Cy^2 \cdot Y^2\}^{1/2}] \\
 & + \sum R_n \{(1 - Pn) X^2 \\
 & + (1 + Pn) Y^2\}^{(n+1)} \\
 & \dots
 \end{aligned} \tag{12}$$

【0044】ここで、例として $n = 4$ (4 次項) を考えると、上記式(12)は、展開したとき、次式(13)で表わす※

$$\begin{aligned}
 Z = & (Cx \cdot X^2 + Cy \cdot Y^2) / [1 + \{1 - (1 + Kx) Cx^2 \cdot X^2 \\
 & - (1 + Ky) Cy^2 \cdot Y^2\}^{1/2}] \\
 & + R_1 \{(1 - P_1) X^2 + (1 + P_1) Y^2\}^2 \\
 & + R_2 \{(1 - P_2) X^2 + (1 + P_2) Y^2\}^3
 \end{aligned}$$

$$+R_3 ((1-P_3) X^2 + (1+P_3) Y^2), \\ +R_4 ((1-P_4) X^2 + (1+P_4) Y^2),$$

.....(13)

ただし、Zは面形状の原点に対する接平面からのずれ量、CxはX軸方向曲率、CyはY軸方向曲率、KxはX軸方向円錐係数、KyはY軸方向円錐係数、Rnは球面項回転対称成分、Pnは非球面項回転非対称成分である。なお、X軸方向曲率半径Rx、Y軸方向曲率半径Ryと曲率Cx、Cyとは、

$$Rx = 1/Cx, Ry = 1/Cy \quad *10$$

$$F(X) = Cx \cdot X^2 / [1 + \{1 - (1+K) Cx^2 \cdot X^2\}^{1/2}] \\ + AX^4 + BX^6 + CX^8 + DX^{10} \dots \dots \dots$$

$$Z = F(X) + (1/2) Cy (Y^2 + Z^2 - F(X)^2) \quad(14)$$

Yトーリック面は、次式(15)で定義される。

$$F(Y) = Cy \cdot Y^2 / [1 + \{1 - (1+K) Cy^2 \cdot Y^2\}^{1/2}] \\ + AY^4 + BY^6 + CY^8 + DY^{10} \dots \dots \dots$$

$$Z = F(Y) + (1/2) Cx (X^2 + Z^2 - F(Y)^2) \quad(15)$$

ただし、Zは面形状の原点に対する接平面からのずれ量、CxはX軸方向曲率、CyはY軸方向曲率、Kは円錐係数、A、B、C、Dは非球面係数である。なお、X軸方向曲率半径Rx、Y軸方向曲率半径Ryと曲率Cx、Cyとは、

$$Rx = 1/Cx, Ry = 1/Cy$$

の関係にある。

※

$$n_d Q_d \cdot N = n_i Q_i \cdot N + m (\lambda/\lambda_0) \nabla \Phi_0 \cdot N \quad(16)$$

ただし、NはHOE面の法線ベクトル、n_i(n_d)は入射側(射出側)の屈折率、Q_i(Q_d)は入射(射出)ベクトル(単位ベクトル)である。また、m=HORは射出光の回折次数である。

【0047】HOEが基準波長λの2点光源、すなわち図36に示すような点P₁=(HX1, HY1, HZ1)を光源とする物体光、および点P₂=(HX2, HY2, HZ2)を光源とする参照光の干渉によって製造される(定義される)とすれば、

$$\Phi_0 = \Phi_0^{(1)}$$

$$= n_1 \cdot s_1 \cdot r_1 - n_1 \cdot s_1 \cdot r_1$$

となる。ただし、r₁(r₂)は点P₁(点P₂)からHOE面の所定の座標までの距離(>0)、n₁(n₂)は製造時(定義時)にHOEを置く媒質の、点P₁(点P₂)を配置した側の屈折率であり、s₁=HV1、およびs₂

30

HOEの定義として、製造時(定義時)にHOEを置く媒質の屈折率n₁(n₂)は、レンズデータ中でHOE面が接している媒質の、点P₁(点P₂)が存在する側の屈折率とする。

【0048】一般的な場合、HOEを製造する際の参照光と物体光は球面波とは限らない。この場合のHOEの光路差関数Φ₀は、多項式で表した付加的な位相項Φ₀^{poly}(基準波長λにおける光路差関数)を加えて次式(17)で表わすことができる。

$$\Phi_0 = \Phi_0^{(1)} + \Phi_0^{poly} \quad(17)$$

ここで、多項式は、

$$\Phi_0^{poly} = \sum_j H_j \cdot x^j \cdot y^j \\ = H_1 x + H_2 y + H_3 x^2 + H_4 xy + H_5 y^2 + \\ H_6 x^3 + H_7 x^2 y + H_8 xy^2 + H_9 y^3 + \dots$$

であり、一般には

$$j = (m+n)^2 + m + 3n / 2$$

で定義することができる。ただし、H_jは各項の係数である。

【0049】さらに光学設計の便宜から、光路差関数Φ₀を

$$\Phi_0 = \Phi_0^{poly}$$

のように付加項のみで表し、それによってHOEを定義

50

13

することもできる。例えば、2点光源 P_1 （点 P_1 ）を一致させると光路差関数 ϕ の干渉による成分 ϕ はゼロとなるので、この場合は実質的に付加項（多項式）のみで光路差関数を表示したことと相当する。以上のHOEに関する説明は、すべてHOE原点を基準とするローカル座標に対するものである。

【0050】以下に、HOEを定義する構成パラメータの例を示す。

面番号 曲率半径 間隔

物体面 ∞ ∞

絞り ∞ 100

2 150 -75

HOE :

$HV1(s_1) = REA(+1)$

$HV2(s_1) = VIR(-1)$

$HOR(m) = 1$

$HX1 = 0, HY1 = -3.40 \times 10^3, HZ1 = -3.40 \times 10^3$

$HX2 = 0, HY2 = 2.50 \times 10^{-4}, HZ2 = -7.04 \times 10^{-4}$

$HWL(\lambda_0) = 544$

$H1 = -1.39 \times 10^{-11}, H2 = -8.57 \times 10^{-5}, H3 = -1.50 \times 10^{-4}$

【0051】次に、HOE面のローカルパワーについて説明する。図37は本発明におけるHOEのローカルパワーを説明するための説明図である。HOEは屈折率 $n \rightarrow \infty$ の超高屈折率レンズで表現することができる（Sweet Model）。波長 λ_0 における光路差関数 ϕ で定義されたHOEを、この超高屈折率レンズで表現すれば、そのザグ量 $S(x, y)$ は、図37に示すような空気（ $n = 1$ ）との境界面で、

$S(x, y) \cdot (n(\lambda) - 1) = m(\lambda/\lambda_0) \phi$ である。

【0052】ザグ量が $S(x, y)$ で与えられる面のローカル曲率 C_x （面法線と x 軸を含む面で切った曲率）は、一般に、

$$C_x = (\partial^2 S / \partial x^2) / [\{ 1 + (\partial S / \partial x)^2 + (\partial S / \partial y)^2 \}^{1/2} \cdot \{ 1 + (\partial S / \partial x)^2 \}]$$

であり、一方、そのときのパワー（ x 成分の屈折力）は、

$$1/f_x = -(n(\lambda) - 1) \cdot C_x$$

と書けるから、 $n \rightarrow \infty$ とすることによりHOEの x 成分のパワーとして、

$$\phi_x = 1/f_x = -m(\lambda/\lambda_0) (\partial^2 \phi / \partial x^2)$$

を得る。同様に、HOEの y 成分のパワーとして、

$$\phi_y = 1/f_y = -m(\lambda/\lambda_0) (\partial^2 \phi / \partial y^2)$$

を得る。

【0053】次に、全系の焦点距離の求め方を説明する。光学系全体に X 方向に高さ 0.01mm の光軸に平行な光線を物体側から入射させ、結像面側で、光学系を

14

射出する光線の X 方向の軸上主光線とのなす角を開口数 N_A とし、 $0.01/N_A$ を X 方向の焦点距離 $F_X = 1/\phi$ とし、光学系全体に Y 方向に高さ 0.01mm の光軸に平行な光線を物体側から入射させ、結像面側で、光学系を射出する光線の Y 方向の軸上主光線とのなす角を開口数 N_A とし、 $0.01/N_A$ を Y 方向の焦点距離 $F_Y = 1/\phi$ とする。

【0054】また、本発明では、HOEを防塵部材で覆うことが望ましい。HOEを外気にさらしておくと、HOEが吸湿して膨張し、回折効率のピーク波長が変化してしまい、回折力に悪影響を及ぼしやすいので、それを防ぐためである。なお、画像観察光学系全体を防塵部材で覆ってもよい。防塵部材は、外部を覆う箱体と、該箱体に光が入射又は出射するための透明カバーを備えているのが好ましい。また、その場合、透明カバーは、ガラス又はプラスチックなどを材料として形成された透明部材で構成し、防塵部材の内側において、透明カバーの面を基板にしてHOEを設けてもよい。このように構成すれば、ゴミ等が拡大観察されてしまうのを防ぐことができることに加えて、外部からの回折素子への水分の侵入により回折素子が膨張して回折のピーク波長が変化してしまうのを防ぐことができる。

【0055】また、その場合、クサビ状の光学部材が透明カバーを兼ねていると好ましい。さらに、その場合、HOEがクサビ状の光学部材に貼りつけられていると好ましい。また、HOEが2枚のクサビ状の光学部材の間に挟まれていてもよい。なお、その場合には、HOEのクサビ状の光学部材に挟まれていない面を接着剤等で封止するとい。

【0056】また、画像表示素子と、以上のような本発明の何れかの観察光学系を接眼光学系として配置した本体部と、本体部を観察者の顔面に保持するために観察者の側頭部に装着されるように構成された支持部材とを備えて頭部装着型画像表示装置ができる。

【0057】その場合、本体部に、観察光学系と、眼鏡のレンズとを一体的に備えて頭部装着型画像表示装置を構成してもよい。

【0058】あるいは、支持部材を、眼鏡の側頭フレームに着脱可能となるように構成して頭部装着型画像表示装置を構成してもよい。

【0059】また、観察光学系をそれぞれ左右1組ずつ並設して両眼視用の頭部装着型画像表示装置を構成することができる。

【0060】

【発明の実施の形態】以下、本発明の観察光学系の実施例について説明する。各実施例においては、例えば図1に示すように、軸上主光線2を、射出瞳1の中心（観察者眼球の旋回中心位置）からプリズム3などの光学部材、画像表示素子として設けられたLCD5の中心に至る光線で定義する。そして、軸上主光線2が射出瞳1か

ら最初の光学部材であるプリズム3の入射面と交差するまでの直線によって定義される光軸をZ軸とし、このZ軸と直交し、かつ、プリズム3を構成する各面の偏心面内の軸をY軸と定義し、前記光軸と直交し、かつ、前記Y軸と直交する軸をX軸と定義する。また、射出瞳1の中心をこの座標系の原点とする。そして、軸上主光線2が射出瞳1からLCD5に至る方向をZ軸の正方向、LCD5に向かうY軸の方向をY軸の正方向、Y軸とZ軸と右手系を構成するX軸の方向をX軸の正方向とそれぞれ定義する。

【0061】本発明の各実施例では、プリズム3はこのY-Z平面内で偏心を行なっており、また、プリズム3に設けられる各回転非対称な面の唯一の対称面をY-Z面としている。

【0062】偏心面については、対応する座標系の原点から、その面の面頂位置の偏心量(X軸方向、Y軸方向、Z軸方向をそれぞれ、X、Y、Z)と、その面の中⼼軸(自由曲面については、上記式(10)のZ軸)のX * *

$$X = R \times \cos(A)$$

$$Y = R \times \sin(A)$$

$$Z = D_0$$

$$\begin{aligned} &+ D_1 R \cos(A) + D_1 R \sin(A) \\ &+ D_2 R^2 \cos(2A) + D_2 (R^2 - 1) + D_2 R^2 \sin(2A) \\ &+ D_3 R^3 \cos(3A) + D_3 (3R^3 - 2R) \cos(A) \\ &+ D_{10} (3R^3 - 2R) \sin(A) + D_{11} R^3 \sin(3A) \\ &+ D_{12} R^4 \cos(4A) + D_{12} (4R^4 - 3R^2) \cos(2A) \\ &+ D_{14} (6R^4 - 6R^2 + 1) + D_{14} (4R^4 - 3R^2) \sin(2A) \\ &+ D_{16} R^4 \sin(4A) \\ &+ D_{18} R^5 \cos(5A) + D_{18} (5R^5 - 4R^3) \cos(3A) \\ &+ D_{19} (10R^5 - 12R^3 + 3R) \cos(A) \\ &+ D_{20} (10R^5 - 12R^3 + 3R) \sin(A) \\ &+ D_{21} (5R^5 - 4R^3) \sin(3A) + D_{22} R^5 \sin(5A) \\ &+ D_{23} R^6 \cos(6A) + D_{23} (6R^6 - 5R^4) \cos(4A) \\ &+ D_{24} (15R^6 - 20R^4 + 6R^2) \cos(2A) \\ &+ D_{26} (20R^6 - 30R^4 + 12R^2 - 1) \\ &+ D_{27} (15R^6 - 20R^4 + 6R^2) \sin(2A) \\ &+ D_{28} (6R^6 - 5R^4) \sin(4A) + D_{29} R^6 \sin(6A) \dots \end{aligned}$$

.....(18)

なお、上記においてX方向に対称な面として表した。ただし、D_m(mは2以上の整数)は係数である。

【0066】また、回転非対称面な自由曲面の形状は次※

$$Z = \sum_n \sum_m C_{nm} X^n Y^m$$

ただし、Σ_nはΣのnが0～k、Σ_mはΣのmが0～nを表わす。

【0067】また、面对称自由曲面(対称面を1つのみ有する回転非対称面)を、この回転非対称面を表わす式(19)により定義する場合は、その対称面により生ずる対称性をX方向に求める場合は、Xの奇数次項を0に(例えばX奇数次項の係数を0にする)、その対称面により★

$$Z = (Y/R) / [1 + \{1 - P(Y^2/R^2)\}^{1/2}]$$

*軸、Y軸、Z軸のそれぞれを中心とする傾き角(それぞれα、β、γ(°))とが与えられている。なお、その場合、αとβの正はそれぞれの軸の正方向に対して半時計回りを、γの正はZ軸の正方向に対して時計回りを意味する。その他、球面の曲率半径、面間隔、媒質の屈折率、アッペ数は慣用法によって与えるものとする。

【0063】また、本発明で用いられる自由曲面の面の形状は上記(10)式により定義し、その定義式のZ軸が自由曲面の軸となる。

【0064】また、自由曲面の他の定義式として、Zernike多項式がある。この面の形状は次式(18)により定義する。その定義式(18)のZ軸がZernike多項式の軸となる。回転非対称面の定義は、X-Y面に対するZ軸の高さの極座標で定義され、RはX-Y面内のZ軸からの距離、AはZ軸周りの方位角でY軸から測った回転角で表わされる。

【0065】

※式(19)により定義することもできる。その定義式(19)のZ軸が回転非対称面の軸となる。

40 Z軸が回転非対称面の軸となる。

.....(19)

★生ずる対称性をY方向に求める場合は、Yの奇数次項を0に(例えば、Y奇数次項の係数を0にする)すればよい。

【0068】また、回転対称非球面の形状は次式(20)により定義する。その定義式(20)のZ軸が回転対称非球面の軸となる。

$$+ A_4 Y^4 + A_6 Y^6 + A_8 Y^8 + A_{10} Y^{10} \dots$$

18

.....(20)

ただし、 Y は Z に垂直な方向であり、 R は近軸曲率半径、 P は円錐係数、 A_0 、 A_1 、 A_2 、 A_{10} は非球面係数である。

〔0069〕なお、本発明の各実施例では、自由曲面の面形状を上記(10)式を用いて表現しているが、上記(18)式、(19)式を用いても同様の作用効果が得られるのは言うまでもない。

[0070]

【実施例】本発明の各実施例に係る画像観察光学系の光軸を含むY-Z断面図、及び横収差図を図1～図8に夫々示す。各実施例の画像観察光学系は、画像表示素子としてLCD5と、LCD5により形成された画像を虚像として観察できるように観察者の眼球中心位置に中間像を形成することなく導いて射出瞳1を形成する接眼光学系とを有している。接眼光学系は、正の屈折力を有するプリズム3を有している。なお、各実施例の説明において、光学系の面番号は原則として射出瞳1からLCD5に至る順番で追跡（逆光線追跡）し、プリズム3における各面の順番も逆光線追跡に合わせて表すこととする。また、各実施例の画像観察光学系の横収差を示す図において、夫々(a)はX方向画角がゼロ、Y方向画角がゼロを通る主光線のY方向の横収差、(b)はX方向画角がゼロ、Y方向画角がゼロを通る主光線のX方向の横収差、(c)はX方向画角がゼロ、Y負方向最大画角を通る主光線のY方向の横収差、(d)はX方向画角がゼロ、Y負方向最大画角を通る主光線のX方向の横収差、(e)はX正方向最大画角、Y負方向最大画角を通る主光線のY方向の横収差、(f)はX正方向最大画角、Y負方向最大画角を通る主光線のX方向の横収差、(g)はX正方向最大画角、Y方向画角がゼロを通る主光線のY方向の横収差、(h)はX正方向最大画角、Y方向画角がゼロを通る主光線のX方向の横収差、(i)はX正方向最大画角、Y正方向最大画角を通る主光線のY方向の横収差、(j)はX正方向最大画角、Y正方向最大画角を通る主光線のX方向の横収差、(k)はX方向画角がゼロ、Y正方向最大画角を通る主光線のY方向の横収差、(l)はX方向画角がゼロ、Y正方向最大画角を通る主光線のX方向の横収差である。

* 口、Y正方向最大画角を通り主光線のX方向の横収差を示している。その他、各実施例の画像観察光学系においては、HOEが、R、G、Bの3層を貼り合わせて構成されており、カラー像を観察することができるようになっている。

【0071】第1实施例

図3は本発明の第1実施例の画像観察光学系の光軸を含むY-Z断面図、図4は本実施例の画像観察光学系の横収差図である。第1実施例の画像観察光学系は、接眼光学系が、正の屈折力を有するプリズム3と、反射型のHOE4とで構成されている。プリズム3は、第1面3₁～第3面3₃を備え、第1面3₁及び第3面3₃がそれぞれ回転非対称な自由曲面に、第2面3₂が球面に形成されている。そして、第1面3₁が同一面上の異なる位置に第1の反射面と射出面とを備えた面として、第2面3₂が第2の反射面として、第3面3₃が入射面としてそれ構成されている。HOE4は、プリズム3の第2面3₂に貼り付けられている。

【0072】そして、本実施例では、LCD5から射出した光がプリズム3の第3面3₁よりプリズム内に入射し、第1面3₁で反射した後、第2面3₂に貼られたHOE4で回折されて反射し、第1面3₁よりプリズム外に射出し、プリズム外に射出した後に途中で結像することなく射出瞳1の位置において図示しない観察者の眼球の網膜上に結像するように構成されている。なお、本実施例では、LCDは、大きさが0.55インチタイプのものを使用している。また、観察画角は、水平画角30°、垂直画角22.8°、瞳径4.0mmである。また、観察波長範囲は、B:470nm、G:520nm、R:630nmに対してそれぞれ±20nmである。

【0073】次に、第1実施例の数値データを示す。数値データ中、“FFS”は自由曲面を示している。なお、FFSは以下の各実施例においても同じく自由曲面を示している。

[0074]

数値データ 1

半画角 X方向 15.0° Y方向 11.4°
入射瞳径 φ 4

面番号	曲率半径	面間隔	偏心	屈折率	アッベ数
物体面	∞	-1000.00			
1	絞り面	0.00	偏心(1)		
2	F F S①	0.00	偏心(2)	1.5163	64.1
3	-49.22	0.00	偏心(3)		
4	-49.22	反射面	0.00	偏心(3)	H O E面(1)
5	-49.22	0.00	偏心(3)	1.5163	64.1
6	F F S①	反射面	0.00	偏心(2)	1.5163
					64.1

19

20

7 FFS② 0.00 偏心(4)
 像面 ∞ 偏心(5)

FFS①

$$\begin{array}{lll} C_4 = -4.9543 \times 10^{-3} & C_6 = -5.4926 \times 10^{-1} & C_8 = 5.4405 \times 10^{-3} \\ C_{10} = 1.7452 \times 10^{-4} & C_{11} = -6.2412 \times 10^{-6} & C_{13} = -1.2786 \times 10^{-5} \\ C_{15} = -1.0849 \times 10^{-5} & & \end{array}$$

FFS②

$$\begin{array}{lll} C_4 = -3.3299 \times 10^{-2} & C_6 = -5.1135 \times 10^{-2} & C_8 = 2.2467 \times 10^{-4} \\ C_{11} = 2.7366 \times 10^{-5} & C_{13} = 1.7180 \times 10^{-4} & C_{15} = -3.8530 \times 10^{-5} \end{array}$$

[0075]

偏心(1)

$$\begin{array}{lll} X = 0.00 & Y = 0.00 & Z = 0.00 \\ \alpha = 0.00 & \beta = 0.00 & \gamma = 0.00 \end{array}$$

偏心(2)

$$\begin{array}{lll} X = 0.00 & Y = 0.00 & Z = 33.00 \\ \alpha = 3.00 & \beta = 0.00 & \gamma = 0.00 \end{array}$$

偏心(3)

$$\begin{array}{lll} X = 0.00 & Y = 0.00 & Z = 43.14 \\ \alpha = -17.50 & \beta = 0.00 & \gamma = 0.00 \end{array}$$

偏心(4)

$$\begin{array}{lll} X = 0.00 & Y = 19.16 & Z = 41.50 \\ \alpha = 51.81 & \beta = 0.00 & \gamma = 0.00 \end{array}$$

偏心(5)

$$\begin{array}{lll} X = 0.00 & Y = 20.81 & Z = 42.90 \\ \alpha = 49.67 & \beta = 0.00 & \gamma = 0.00 \end{array}$$

[0076]

HOE面(1)

$$\begin{array}{lll} HV1 = REA & HV2 = REA & H\circ R = 1 \\ HX1 = 0.0 & HY1 = 0.0 & HZ1 = 0.0 \\ HX2 = 0.0 & HY2 = 0.0 & HZ2 = 0.0 \\ HWL (\text{第一層}) = 630 & HWL (\text{第二層}) = 520 & HWL (\text{第三層}) = 470 \\ H2 = 7.9895 \times 10^{-1} & H3 = -2.7217 \times 10^{-4} & H5 = 1.4189 \times 10^{-1} \\ H7 = -2.7388 \times 10^{-5} & H9 = -2.7535 \times 10^{-5} & H10 = -3.0718 \times 10^{-7} \\ H12 = -6.2875 \times 10^{-7} & H14 = -7.4767 \times 10^{-6} & H16 = 6.8373 \times 10^{-8} \\ H18 = 1.7870 \times 10^{-7} & H20 = 3.1375 \times 10^{-7} & H21 = -8.1294 \times 10^{-10} \\ H23 = 3.8647 \times 10^{-9} & H25 = -8.0227 \times 10^{-9} & H27 = 3.6816 \times 10^{-9} \end{array}$$

全系のパワー	X方向	Y方向
	0.048	0.046

条件式

条件式(1), (3), (5)	0.062818
条件式(2), (4), (6)	-0.06343
条件式(7), (8), (9)	-0.00545

HOEのX方向のパワーの符号： 正

[0077] 第2実施例

図1は本発明の第2実施例の画像観察光学系の光軸を含むY-Z断面図、図2は本実施例の画像観察光学系の横

収差図である。第2実施例の画像観察光学系では、接眼光学系は、正の屈折力を有するプリズム3と、反射型のHOE4と、クサビ型プリズム（ウェッジプリズム）6

21

とで構成されている。プリズム3は、第1面3₁～第3面3₂を備え、第1面3₁及び第3面3₂がそれぞれ回転非対称な自由曲面に、第2面3₁が球面に形成されている。そして、第1面3₁が同一面上の異なる位置に第1の反射面と射出面とを備えた面として、第2面3₁が第2の反射面として、第3面3₂が入射面としてそれぞれ構成されている。HOE4は、プリズム3の第2面3₁に貼り付けられている。クサビ型プリズム6は、両面が平面で、かつ平行でない面に形成されており、LCD5とプリズム3の第3面3₂との間に設けられている。

【0078】そして、本実施例では、LCD5から射出した光が、クサビ型プリズム6を経て屈折して、第3面*

22

*3₂よりプリズム内に入射し、第1面3₁で反射した後、第2面3₁に貼られたHOE4で回折されて反射し、第1面3₁よりプリズム外に射出し、プリズム外に射出した後に途中で結像することなく射出瞳1の位置において図示しない観察者の眼球の網膜上に結像するように構成されている。なお、本実施例では、LCDは、大きさが0.7インチタイプのものを使用している。また、観察画角は、水平画角28°、垂直画角21.2°、瞳径4.0mmである。また、観察波長範囲は、B: 470nm、G: 520nm、R: 630nmに対してそれぞれ±20nmである。

【0079】次に、第2実施例の数値データを示す。

数値データ2

半画角	X方向14.0°	Y方向10.6°
入射瞳径	Φ4	

面番号	曲率半径	面間隔	偏心	屈折率	アッペ数
物体面	∞	-1000.00			
1	絞り面	0.00	偏心(1)		
2	FFS①	0.00	偏心(2)	1.5163	64.1
3	-61.24	0.00	偏心(3)		
4	-61.24 反射面	0.00	偏心(3)		HOE面(1)
5	-61.24	0.00	偏心(3)	1.5163	64.1
6	FFS①反射面	0.00	偏心(2)	1.5163	64.1
7	FFS②	0.00	偏心(4)		
8	∞	0.00	偏心(5)	1.5163	64.1
9	∞	0.00	偏心(6)		
像面	∞	0.00	偏心(7)		

FFS①

$$\begin{aligned} C_4 &= -4.1902 \times 10^{-3} & C_6 &= -4.2904 \times 10^{-3} & C_8 &= -3.3364 \times 10^{-3} \\ C_{10} &= -2.2208 \times 10^{-3} & C_{11} &= -7.8524 \times 10^{-7} & C_{13} &= 1.9353 \times 10^{-6} \\ C_{15} &= -5.4505 \times 10^{-7} \end{aligned}$$

FFS②

$$\begin{aligned} C_4 &= -6.5417 \times 10^{-3} & C_6 &= -2.9521 \times 10^{-2} & C_8 &= 4.9017 \times 10^{-4} \\ C_{11} &= -1.3186 \times 10^{-3} & C_{13} &= 8.5736 \times 10^{-3} & C_{15} &= 4.0290 \times 10^{-5} \end{aligned}$$

【0080】

偏心(1)

$$\begin{aligned} X &= 0.00 & Y &= 0.00 & Z &= 0.00 \\ \alpha &= 0.00 & \beta &= 0.00 & \gamma &= 0.00 \end{aligned}$$

偏心(2)

$$\begin{aligned} X &= 0.00 & Y &= 0.00 & Z &= 34.00 \\ \alpha &= 2.09 & \beta &= 0.00 & \gamma &= 0.00 \end{aligned}$$

偏心(3)

$$\begin{aligned} X &= 0.00 & Y &= 0.00 & Z &= 44.37 \\ \alpha &= -18.02 & \beta &= 0.00 & \gamma &= 0.00 \end{aligned}$$

偏心(4)

$$\begin{aligned} X &= 0.00 & Y &= 19.80 & Z &= 43.21 \\ \alpha &= 45.85 & \beta &= 0.00 & \gamma &= 0.00 \end{aligned}$$

偏心(5)

23

X = 0.00 Y = 20.97 Z = 44.15
 α = 40.40 β = 0.00 γ = 0.00

偏心(6)

X = 0.00 Y = 22.70 Z = 45.73
 α = 53.18 β = 0.00 γ = 0.00

偏心(7)

X = 0.00 Y = 26.18 Z = 49.24
 α = 44.70 β = 0.00 γ = 0.00

【0081】

HOE面(1)

H V 1 = R E A	H V 2 = R E A	H O R = 1
H X 1 = 0.0	H Y 1 = 0.0	H Z 1 = 0.0
H X 2 = 0.0	H Y 2 = 0.0	H Z 2 = 0.0
H W L (第一層) = 630 H W L (第二層) = 520 H W L (第三層) = 470		
H 2 = -1.3521×10^{-4}	H 3 = -1.9729×10^{-4}	H 5 = -3.6827×10^{-4}
H 7 = 7.1422×10^{-6}	H 9 = -1.6569×10^{-6}	H 10 = -2.9477×10^{-7}
H 12 = 1.1841×10^{-6}	H 14 = 7.7644×10^{-7}	H 16 = -1.4507×10^{-8}
H 18 = -3.5455×10^{-8}	H 20 = 6.1354×10^{-9}	H 21 = -3.3323×10^{-10}
H 23 = 2.1818×10^{-9}	H 25 = -1.1143×10^{-8}	H 27 = -1.4457×10^{-9}

全系のパワー	X方向	Y方向
	0.034	0.036

条件式

条件式(1), (3), (5)	0.02352
条件式(2), (4), (6)	-0.01062
条件式(7), (8), (9)	0.020574

HOEのX方向のパワーの符号： 正

【0082】第3実施例

図5は本発明の第3実施例の画像観察光学系の光軸を含むY-Z断面図、図6は本実施例の画像観察光学系の横収差図である。第3実施例の画像観察光学系では、接眼光学系は、正の屈折力を有するプリズム3と反射型のHOE4と、透過型のHOE7などで構成されている。プリズム3は、第1面3₁～第3面3₃を備え、第1面3₁及び第3面3₃がそれぞれ回転非対称な自由曲面に、第2面3₂が球面に形成されている。そして、第1面3₁が同一面上の異なる位置に第1の反射面と射出面とを備えた面として、第2面3₂が第2の反射面として、第3面3₃が入射面としてそれぞれ構成されている。HOE4は、プリズム3の第2面3₂に貼り付けられている。HOE7は、射出瞳1とプリズム3の第1面3₁との間に設け * 40

30* られている。

【0083】そして、本実施例では、LCD5から射出した光が、第3面3₃よりプリズム内に入射し、第1面3₁で反射した後、第2面3₂に貼られたHOE4で回折されて反射し、第1面3₁よりプリズム外に射出し、HOE7で回折されて透過した後、途中で結像することなく射出瞳1の位置において図示しない観察者の眼球の網膜上に結像するように構成されている。なお、本実施例では、LCDは、大きさが0.55インチタイプのものを使用している。また、観察画角は、水平画角30°、垂直画角22.8°、瞳径4.0mmである。また、観察波長範囲は、B:470nm、G:520nm、R:630nmに対してそれぞれ±20nmである。

【0084】次に、第3実施例の数値データを示す。

数値データ3

半画角	X方向15.0°	Y方向11.4°
入射瞳径	$\phi 4$	

面番号	曲率半径	面間隔	偏心	屈折率	アッベ数
物体面	∞	-1000.00			
1	絞り面	0.00	偏心(1)		

(14)

特開2002-107658

25

2	∞	0.00	偏心(2)	
3	F F S①	0.00	偏心(3)	1.5163
4	-55.35	0.00	偏心(4)	
5	-55.35 反射面	0.00	偏心(4)	
6	-55.35	0.00	偏心(4)	1.5163
7	F F S①反射面	0.00	偏心(3)	1.5163
8	F F S②	0.00	偏心(5)	
像 面	∞	0.00	偏心(6)	

26

H O E面(1)

H O E面(2)

64.1

64.1

64.1

F F S①

$$\begin{aligned} C_4 &= -3.5961 \times 10^{-3} & C_6 &= -2.0707 \times 10^{-1} & C_8 &= -2.1572 \times 10^{-5} \\ C_{10} &= -3.3973 \times 10^{-5} & C_{11} &= -3.6209 \times 10^{-6} & C_{13} &= -8.8721 \times 10^{-6} \\ C_{15} &= -2.3582 \times 10^{-6} & & & & \end{aligned}$$

F F S②

$$\begin{aligned} C_4 &= -3.1505 \times 10^{-2} & C_6 &= -2.4449 \times 10^{-2} & C_8 &= 2.2680 \times 10^{-4} \\ C_{11} &= 2.9376 \times 10^{-5} & C_{13} &= 1.4803 \times 10^{-5} & C_{15} &= -4.2578 \times 10^{-6} \end{aligned}$$

[0085]

偏心(1)

$$\begin{aligned} X &= 0.00 & Y &= 0.00 & Z &= 0.00 \\ \alpha &= 0.00 & \beta &= 0.00 & \gamma &= 0.00 \end{aligned}$$

偏心(2)

$$\begin{aligned} X &= 0.00 & Y &= 3.18 & Z &= 31.00 \\ \alpha &= -3.00 & \beta &= 0.00 & \gamma &= 0.00 \end{aligned}$$

偏心(3)

$$\begin{aligned} X &= 0.00 & Y &= 0.00 & Z &= 33.18 \\ \alpha &= 3.00 & \beta &= 0.00 & \gamma &= 0.00 \end{aligned}$$

偏心(4)

$$\begin{aligned} X &= 0.00 & Y &= 0.00 & Z &= 43.37 \\ \alpha &= -18.23 & \beta &= 0.00 & \gamma &= 0.00 \end{aligned}$$

偏心(5)

$$\begin{aligned} X &= 0.00 & Y &= 19.15 & Z &= 42.13 \\ \alpha &= 56.93 & \beta &= 0.00 & \gamma &= 0.00 \end{aligned}$$

偏心(6)

$$\begin{aligned} X &= 0.00 & Y &= 22.20 & Z &= 45.24 \\ \alpha &= 44.33 & \beta &= 0.00 & \gamma &= 0.00 \end{aligned}$$

[0086]

H O E面(1)

$$\begin{aligned} HV1 &= REA & HV2 &= REA & H\circ R &= 1 \\ HX1 &= 0.0 & HY1 &= 0.0 & HZ1 &= 0.0 \\ HX2 &= 0.0 & HY2 &= 0.0 & HZ2 &= 0.0 \\ HWL \text{ (第一層)} &= 630 & HWL \text{ (第二層)} &= 520 & HWL \text{ (第三層)} &= 470 \\ H2 &= 2.8092 \times 10^{-2} & H3 &= 1.5220 \times 10^{-3} & H5 &= 6.4269 \times 10^{-3} \\ H7 &= -2.0851 \times 10^{-4} & H9 &= -1.3663 \times 10^{-4} & H10 &= 2.7969 \times 10^{-6} \\ H12 &= 3.0519 \times 10^{-5} & H14 &= 2.0315 \times 10^{-5} & H16 &= 1.3880 \times 10^{-6} \\ H18 &= 3.1198 \times 10^{-6} & H20 &= 5.6693 \times 10^{-8} & H21 &= 7.8767 \times 10^{-8} \\ H23 &= 6.4495 \times 10^{-9} & H25 &= 4.4701 \times 10^{-9} & H27 &= -3.3360 \times 10^{-9} \end{aligned}$$

H O E面(2)

$$\begin{aligned} HV1 &= REA & HV2 &= REA & H\circ R &= 1 \\ HX1 &= 0.0 & HY1 &= 0.0 & HZ1 &= 0.0 \end{aligned}$$

27

28

$$\begin{array}{lll}
 HX2 = 0.0 & HY2 = 0.0 & HZ2 = 0.0 \\
 HWL (\text{第一層}) = 630 & HWL (\text{第二層}) = 520 & HWL (\text{第三層}) = 470 \\
 H2 = 1.6204 \times 10^{-2} & H3 = -2.1630 \times 10^{-3} & H5 = -4.9648 \times 10^{-3} \\
 H7 = 8.6587 \times 10^{-5} & H9 = 8.7901 \times 10^{-5} & H10 = 2.1618 \times 10^{-6} \\
 H12 = -1.3028 \times 10^{-6} & H14 = -3.0085 \times 10^{-6} & H16 = -8.2023 \times 10^{-6} \\
 H18 = -1.7863 \times 10^{-7} & H20 = 3.7760 \times 10^{-8} & H21 = -1.9525 \times 10^{-8} \\
 H23 = -1.7408 \times 10^{-8} & H25 = -1.1208 \times 10^{-9} & H27 = 2.8284 \times 10^{-9}
 \end{array}$$

全系のパワー	X方向	Y方向
	0.047	0.047

条件式

条件式(1), (3), (5)	0.380181
条件式(2), (4), (6)	0.145371
条件式(7)	0.210195

HOEのX方向のパワーの符号： 正

【0087】第4実施例

図7は本発明の第4実施例の画像観察光学系の光軸を含むY-Z断面図、図8は本実施例の画像観察光学系の横収差図である。第4実施例の画像観察光学系では、接眼光学系は、正の屈折力を有するプリズム3と反射型のHOE4と、透過型のHOE8とで構成されている。プリズム3は、第1面3₁～第3面3₃を備え、第1面3₁及び第3面3₃がそれぞれ回転非対称な自由曲面に、第2面3₂が球面に形成されている。そして、第1面3₁が同一面上の異なる位置に第1の反射面と射出面とを備えた面として、第2面3₂が第2の反射面として、第3面3₃が入射面としてそれぞれ構成されている。HOE4は、プリズム3の第2面3₂に貼り付けられている。HOE8は、LCD5とプリズム3の第3面3₃との間に設け

* られている。

【0088】そして、LCD5から射出した光が、HOE8で回折されて透過した後、第3面3₃よりプリズム内に入射し、第1面3₁で反射し、第2面3₂に貼られたHOE4で回折されて反射し、第1面3₁よりプリズム外に射出した後、途中で結像することなく射出瞳3₁の位置において図示しない観察者の眼球の網膜上に結像するように構成されている。なお、本実施例では、LCDは、大きさが0.55インチタイプのものを使用している。また、観察画角は、水平画角30°、水平画角22.8°、瞳径4.0mmである。また、観察波長範囲は、B: 470nm、G: 520nm、R: 630nmに対してそれぞれ±20nmである。

【0089】次に、第4実施例の数値データを示す。

数値データ4

半画角	X方向15.0°	Y方向11.4°
入射瞳径	Φ4	

面番号	曲率半径	面間隔	偏心	屈折率	アッベ数
物体面	∞	-1000.00			
1	絞り面	0.00	偏心(1)		
2	F F S①	0.00	偏心(2)	1.5163	64.1
3	-60.08	0.00	偏心(3)		
4	-60.08 反射面	0.00	偏心(3)		HOE面(1)
5	-60.08	0.00	偏心(3)	1.5163	64.1
6	F F S①反射面	0.00	偏心(2)	1.5163	64.1
7	F F S②	0.00	偏心(4)		
8	0.00	0.00	偏心(5)		HOE面(2)
像面	0.00	0.00	偏心(6)		

FFS①

$$\begin{array}{lll}
 C4 = -1.9551 \times 10^{-3} & C6 = -2.4158 \times 10^{-3} & C8 = -1.8284 \times 10^{-5} \\
 C10 = 1.0142 \times 10^{-4} & C11 = -2.5199 \times 10^{-6} & C13 = -5.8263 \times 10^{-6}
 \end{array}$$

29

30

$$C_{15} = -5.0628 \times 10^{-6}$$

FFS②

$$C_4 = -3.2163 \times 10^{-2}$$

$$C_6 = -2.5384 \times 10^{-4}$$

$$C_8 = -4.3281 \times 10^{-4}$$

$$C_{11} = 4.5846 \times 10^{-5}$$

$$C_{13} = 1.0823 \times 10^{-4}$$

$$C_{15} = -1.2862 \times 10^{-4}$$

[0090]

偏心(1)

$$X = 0.00 \quad Y = 0.00 \quad Z = 0.00$$

$$\alpha = 0.00 \quad \beta = 0.00 \quad \gamma = 0.00$$

偏心(2)

$$X = 0.00 \quad Y = 0.00 \quad Z = 33.00$$

$$\alpha = 2.92 \quad \beta = 0.00 \quad \gamma = 0.00$$

偏心(3)

$$X = 0.00 \quad Y = 0.00 \quad Z = 43.14$$

$$\alpha = -18.21 \quad \beta = 0.00 \quad \gamma = 0.00$$

偏心(4)

$$X = 0.00 \quad Y = 19.39 \quad Z = 42.14$$

$$\alpha = 47.28 \quad \beta = 0.00 \quad \gamma = 0.00$$

偏心(5)

$$X = 0.00 \quad Y = 0.00 \quad Z = 0.00$$

$$\alpha = 27.12 \quad \beta = 33.90 \quad \gamma = 50.92$$

偏心(6)

$$X = 0.00 \quad Y = 0.00 \quad Z = 0.00$$

$$\alpha = 21.56 \quad \beta = 44.92 \quad \gamma = 35.05$$

[0091]

HOE面(1)

$$HV_1 = REA \quad HV_2 = REA \quad H\alpha R = 1$$

$$HX_1 = 0.0 \quad HY_1 = 0.0 \quad HZ_1 = 0.0$$

$$HX_2 = 0.0 \quad HY_2 = 0.0 \quad HZ_2 = 0.0$$

$$HWL \text{ (第一層)} = 630 \quad HWL \text{ (第二層)} = 520 \quad HWL \text{ (第三層)} = 470$$

$$H_2 = 3.4766 \times 10^{-2} \quad H_3 = -7.2076 \times 10^{-4} \quad H_5 = 1.4877 \times 10^{-3}$$

$$H_7 = -9.4600 \times 10^{-5} \quad H_9 = -1.5510 \times 10^{-5} \quad H_{10} = 2.1671 \times 10^{-6}$$

$$H_{12} = 1.8003 \times 10^{-6} \quad H_{14} = -5.3603 \times 10^{-6} \quad H_{16} = 2.5751 \times 10^{-7}$$

$$H_{18} = 4.0221 \times 10^{-7} \quad H_{20} = 4.1907 \times 10^{-7} \quad H_{21} = 3.0352 \times 10^{-9}$$

$$H_{23} = 2.4963 \times 10^{-10} \quad H_{25} = 1.6647 \times 10^{-8} \quad H_{27} = 3.1432 \times 10^{-8}$$

HOE面(2)

$$HV_1 = REA \quad HV_2 = REA \quad H\alpha R = 1$$

$$HX_1 = 0.0 \quad HY_1 = 0.0 \quad HZ_1 = 0.0$$

$$HX_2 = 0.0 \quad HY_2 = 0.0 \quad HZ_2 = 0.0$$

$$HWL \text{ (第一層)} = 630 \quad HWL \text{ (第二層)} = 520 \quad HWL \text{ (第三層)} = 470$$

$$H_2 = -2.3406 \times 10^{-1} \quad H_3 = -1.5776 \times 10^{-3} \quad H_5 = 2.1827 \times 10^{-3}$$

$$H_7 = -2.8696 \times 10^{-3} \quad H_9 = -9.2219 \times 10^{-5} \quad H_{10} = -5.7504 \times 10^{-5}$$

$$H_{12} = -2.8604 \times 10^{-4} \quad H_{14} = -1.5310 \times 10^{-7} \quad H_{16} = -5.4533 \times 10^{-6}$$

$$H_{18} = -4.8180 \times 10^{-6} \quad H_{20} = 5.8645 \times 10^{-7} \quad H_{21} = -6.0080 \times 10^{-7}$$

全系のパワー

X方向

Y方向

0.047

0.047

条件式

条件式(1), (3), (5)

0.019461

31

32

条件式(2), (4), (6)	-0.18002
条件式(7), (8), (9)	-0.0627

HOEのX方向のパワーの符号：正負

【0092】

【比較例】次に、本発明の比較例を示す。なお、比較例における断面図及び横収差図は、上記各実施例に準じている。

第1比較例

図9は本発明の第1比較例の画像観察光学系の光軸を含むY-Z断面図、図10は本比較例の画像観察光学系の横収差図である。第1比較例の画像観察光学系では、接眼光学系は、正の屈折力を有するプリズム3だけで構成されている。プリズム3は、第1面3₁～第3面3₃を備え、いずれの面もそれ回転非対称な自由曲面に形成されている。そして、第1面3₁が同一面上の異なる位置に第1の反射面と射出面とを備えた面として、第2面3₂が第2の反射面として、第3面3₃が入射面としてそれぞれ構成されている。

【0093】そして、本比較例では、LCD5から射出した光が、第3面3₃よりプリズム内に入射し、第1面3₁、第2面3₂で反射した後、途中で結像することなく射出瞳1の位置において図示しない観察者の眼球の網膜上に結像するように構成されている。なお、本比較例では、LCDは、大きさが0.7インチタイプのものを使用している。また、観察画角は、水平画角28°、垂直画角21.2°、瞳径4.0mmである。また、観察波長範囲は435nm～656nmである。

【0094】第2比較例

図11は本発明の第2比較例の画像観察光学系の光軸を含むY-Z断面図、図12は本比較例の画像観察光学系の横収差図である。第2比較例の画像観察光学系では、接眼光学系は、正の屈折力を有するプリズム3とDOE9とで構成されている。プリズム3は、第1面3₁～第3面3₃を備え、いずれの面もそれ回転非対称な自由曲面に形成されている。そして、第1面3₁が同一面上の異なる位置に第1の反射面と射出面とを備えた面として、第2面3₂が第2の反射面として、第3面3₃が入射面としてそれぞれ構成されている。DOE9は、LCD5とプリズム3の第3面3₃との間に設けられている。

【0095】そして、本比較例では、LCD5から射出した光が、DOE9で回折されて透過し、第3面3₃よりプリズム内に入射し、第1面3₁、第2面3₂で反射した後、途中で結像することなく射出瞳1の位置において図示しない観察者の眼球の網膜上に結像するように構成されている。なお、本比較例では、LCDは、大きさが0.7インチタイプのものを使用している。また、観察画角は、水平画角28°、瞳径4.0mmである。また、観察波長範囲は435nm～656nmである。

10

20

30

40

50

【0096】第1比較例のように、自由曲面を有するプリズムのみで接眼光学系を構成した場合は、図10に示すように、大きな横収差が残存する。第2比較例のように、DOEを付加した場合は、図12に示すように、横収差量は第1実施例に比べて改善してはいるものの依然として多く残存している。それに対し、本発明の第1～第4実施例の場合には、図2、4、6、8に示すように、それぞれ各R(470±20nm)、G(520±20nm)、B(470±20nm)の波長帯域において良好に横収差が補正されており、しかも、各波長帯域の主波長同士も良好に横収差が補正されていることがわかる。

【0097】なお、上記各実施例におけるHOEは、防塵部材で覆われているとよい。また、図5の実施例のような構成の場合、図13に示すように、防塵部材10の一部を構成するガラス、プラスチックなどの透明部材で構成されたカバー部材11の内側にHOE7を貼りつけてもよい。また、図1の実施例のような構成に用いられるクサビ型プリズムは、射出瞳1とプリズム3との間に配置してもよく、その場合は図14に示すように、クサビ型プリズム6に防塵カバー11を兼用させてもよい。さらに、本発明で用いるHOEは、プリズムに貼りつける以外に、図15(a)に示すようにクサビ型プリズムの面を平らに近づけて、そこに貼りつけてもよい。また、図15(b)に示すように、HOEを2つのクサビ型プリズムで挟んで上下を封止材で封着してもよい。

【0098】また、本発明の画像観察光学系に用いるプリズムは、上記実施例のタイプのものに限定されるものではなく、図16～図26に示すようなプリズムを用いてもよい。

【0099】図16の場合は、プリズムPは、第1面3₂と、第2面3₃と、第3面3₄とを備え、第1面3₂が射出面として、第2面3₃が反射面として、第3面3₄が入射面としてそれぞれ構成されている。そして、プリズムPは、LCD36から射出した光が第3面3₄で屈折してプリズム内に入射し、第2面3₃で反射し、第1面3₂で屈折してプリズム外に射出し、射出瞳3₁の位置において図示しない観察者の眼球の網膜上に結像するように構成されている。

【0100】図17の場合は、プリズムPは、第1面3₂と、第2面3₃と、第3面3₄とを備え、第1面3₂が第1の反射面と射出面とを兼ね備えた面として、第2面3₃が第3の反射面と入射面とを兼ね備えた面として、第3面3₄が第2の反射面としてそれぞれ構成されている。そして、プリズムPは、LCD36から射出した光が第2面3₃で屈折してプリズム内に入射し、第1

面32で反射し、第3面34で反射した後、第2面33で反射し、第1面32で屈折してプリズム外に射出し、射出瞳31の位置において図示しない観察者の眼球の網膜上に結像するように構成されている。

【0101】図18の場合は、プリズムPは、第1面32と、第2面33と、第3面34と、第4面35とを備え、第1面32が射出面として、第2面33が第3の反射面として、第3面34が入射面と第2の反射面とを兼ね備えた面として、第4面35が第1の反射面としてそれぞれ構成されている。そして、プリズムPは、LCD36から射出した光が第3面34で屈折してプリズム内に入射し、第4面35で反射した後、第3面34で反射し、第2面33で反射し、第1面32で屈折してプリズム外に射出し、射出瞳31の位置において図示しない観察者の眼球の網膜上に結像するように構成されている。

【0102】図19の場合は、プリズムPは、第1面32と、第2面33と、第3面34と、第4面35とを備え、第1面32が射出面として、第2面33が同一面上の異なる位置に第1の反射面と第3の反射面とを備えた面として、第3面34が第2の反射面として、第4面35が入射面としてそれぞれ構成されている。そして、プリズムPは、LCD36から射出した光が第4面35で屈折してプリズム内に入射し、第2面33に備わる第1の反射面で反射し、第3面34で反射した後、第2面33に備わる第3の反射面で反射し、第1面32で屈折してプリズム外に射出し、射出瞳31の位置において図示しない観察者の眼球の網膜上に結像するように構成されている。

【0103】図20の場合は、プリズムPは、第1面32と、第2面33と、第3面34と、第4面35とを備え、第1面32が射出面として、第2面33が入射面と第2の反射面とを兼ね備えた面と、第4の反射面とを同一面上の異なる位置に備えた面として、第3面34が第3の反射面として、第4面35が第1の反射面としてそれぞれ構成されている。そして、プリズムPは、LCD36から射出した光が第2面33に備わる入射面で屈折してプリズム内に入射し、第4面35で反射した後、第2面33に備わる第2の反射面で反射し、第3面34で反射した後、第2面33に備わる第4の反射面で反射し、第1面32で屈折してプリズム外に射出し、射出瞳31の位置において図示しない観察者の眼球の網膜上に結像するように構成されている。

【0104】図21の場合は、プリズムPは、第1面32と、第2面33と、第3面34とを備え、第1面32が第1の反射面と、第3の反射面と射出面とを兼ね備えた面とを同一面上の異なる位置に備えた面として、第2面33が第4の反射面として、第3面34が入射面と第2の反射面とを兼ね備えた面としてそれぞれ構成されている。そして、プリズムPは、LCD36から射出した光が第3面34に備わる入射面で屈折してプリズム内に

入射し、第1面32に備わる第1の反射面で反射した後、第3面34に備わる第2の反射面で反射し、第1面32に備わる第3の反射面で反射し、第2面33で反射した後、第1面32に備わる射出面で屈折してプリズム外に射出し、射出瞳31の位置において図示しない観察者の眼球の網膜上に結像するように構成されている。

【0105】図22の場合は、プリズムPは、第1面32と、第2面33と、第3面34とを備え、第1面32が入射面と第2の反射面とを兼ね備えた面と、第4の反射面と射出面とを兼ね備えた面とを同一面上の異なる位置に備えた面として、第2面33が第5の反射面として、第3面34が第1の反射面と第3の反射面とを兼ね備えた面としてそれぞれ構成されている。そして、プリズムPは、LCD36から射出した光が第1面32に備わる入射面で屈折してプリズム内に入射し、第3面34に備わる第1の反射面で反射した後、第1面32に備わる第2の反射面で反射し、第3面34に備わる第3の反射面で反射した後、第1面32に備わる第4の反射面で反射し、第2面33で反射した後、第1面32に備わる射出面で屈折してプリズム外に射出し、射出瞳31の位置において図示しない観察者の眼球の網膜上に結像するように構成されている。

【0106】図23の場合は、プリズムPは第1面32と、第2面33と、第3面34、第4面35とを備え、第1面32が第2の反射面と射出面とを兼ね備えた面として、第2面33が第3の反射面として、第3面34が第1の反射面として、第4面35が入射面としてそれぞれ構成されている。そして、プリズムPは、LCD36から射出した光が第4面35で屈折してプリズム内に入射し、第3面34で反射した後、第1面32に備わる第2の反射面で反射し、第2面33で反射した後、第1面に備わる射出面で屈折してプリズム外に射出し、射出瞳31の位置において図示しない観察者の眼球の網膜上に結像するように構成されている。

【0107】図24の場合は、プリズムPは第1プリズムP1と第2プリズムP2とで構成されている。第1プリズムP1は、第1面32と、第2面33と、第3面34と、第4面35とを備え、第1面32が第1プリズムP1における第2の反射面と射出面とを兼ね備えた面として、第2面33が第1プリズムP1における第3の反射面として、第3面34が第1プリズムP1における第1の反射面として、第4面35が第1プリズムP1における入射面としてそれぞれ構成されている。また、第2プリズムP2は、第1面41と、第2面42と、第3面43とを備え、第1面41が第2プリズムP2における第1の反射面と射出面を兼ね備えた面として、第2面42が第2プリズムP2における第2の反射面として、第3面43が第2プリズムP2における入射面としてそれぞれ構成されている。

【0108】そして、プリズムPは、LCD36から射

出した光が第2プリズムP2の第3面43で屈折してプリズム内に入射し、第3面43に備わる第1の反射面で反射し、第2面42で反射した後、第1面41で屈折してプリズム外に射出し、さらに、第1プリズムP1の第4面35で屈折してプリズム内に入射し、第3面34で反射した後、第1面32に備わる第2の反射面で反射し、第2面33で反射した後、第1面32に備わる射出面で屈折してプリズム外に射出し、射出瞳31の位置において図示しない観察者の眼球の網膜上に結像するように構成されている。

【0109】図25の場合は、プリズムPは第1プリズムP1と第2プリズムP2とで構成されている。第1プリズムP1は、第1面32と、第2面33と、第3面34と、第4面35とを備え、第1面32が第1プリズムP1における第2の反射面と射出面とを兼ね備えた面として、第2面33が第1プリズムP1における第3の反射面として、第3面34が第1プリズムP1における第1の反射面として、第4面35が第1プリズムP1における入射面としてそれぞれ構成されている。また、第2プリズムP2は、第1面41と、第2面42と、第3面43と、第4面44とを備え、第1面41が第2プリズムP2における射出面として、第2面42が第2プリズムP2における第2の反射面として、第3面43が第2プリズムP2における第1の反射面として、第4面44が第2プリズムP2における入射面としてそれぞれ構成されている。

【0110】そして、プリズムPは、LCD36から射出した光が第2プリズムP2の第4面44で屈折してプリズム内に入射し、第3面43で反射し、第2面42で反射し、第1面41で屈折してプリズム外に射出し、さらに、第1プリズムP1の第4面35で屈折してプリズム内に入射し、第3面34で反射した後、第1面32に備わる第2の反射面で反射し、第2面33で反射した後、第1面32に備わる射出面で屈折してプリズム外に射出し、射出瞳31の位置において図示しない観察者の眼球の網膜上に結像するように構成されている。

【0111】図26の場合は、プリズムPは第1プリズムP1と第2プリズムP2とで構成されている。第1プリズムP1は、第1面32と、第2面33と、第3面34と、第4面35とを備え、第1面32が第1プリズムP1における第2の反射面と射出面とを兼ね備えた面として、第2面33が第1プリズムP1における第3の反射面として、第3面34が第1プリズムP1における第1の反射面として、第4面35が第1プリズムP1における入射面としてそれぞれ構成されている。また、第2プリズムP2は、第1面41と、第2面42と、第3面43と、第4面44とを備え、第1面41が第2プリズムP2における射出面として、第2面42が第2プリズムP2における第2の反射面として、第3面43が第2プリズムP2における第1の反射面として、第4面44が第2プリズムP2における入射面として、第4面44

が第2プリズムP2における入射面としてそれぞれ構成されている。

【0112】そして、プリズムPは、LCD36から射出した光が第2プリズムP2の第4面44で屈折してプリズム内に入射し、第3面43で反射し、第2面42で反射し、第1面41で屈折してプリズム外に射出し、さらに、第1プリズムP1の第4面35で屈折してプリズム内に入射し、第3面34で反射した後、第1面32に備わる第2の反射面で反射し、第2面33で反射した後、第1面32に備わる射出面で屈折してプリズム外に射出し、射出瞳31の位置において図示しない観察者の眼球の網膜上に結像するように構成されている。なお、図25と図26のプリズムとは、第2プリズムP2の第3面と第4面とを結ぶ光路と第1面と第2面とを結ぶ光路とが図25では、交差しないのに対し、図26では交差するようになっている点で構成が異なっている。

【0113】次に、以上のような本発明による画像観察光学系を具体化した画像表示装置の実施形態を以下に例示する。

【0114】その一例として、図27に頭部装着型で両眼装着用の画像表示装置を観察者の頭部に装着した状態を、図28にその断面図を示す。この構成は、本発明による観察光学系を図28に示すように接眼光学系として用いており、この接眼光学系100と画像表示素子5からなる組を左右一対用意し、それらを眼幅距離だけ離して支持することにより、両眼で観察できる据え付け型又は頭部装着型画像表示装置のようなポータブル型の画像表示装置102として構成されている。

【0115】すなわち、画像表示装置本体102には、上記のような観察光学系が接眼光学系100として用いられ、その接眼光学系100が左右一対備えられ、それらに対応して像面に液晶表示素子からなる画像表示素子5が配置されている。そして、画像表示装置本体102には、図27に示すように、左右に連続して図示のような側頭フレーム103が設けられ、画像表示装置本体102を観察者の眼前に保持できるようになっている。なお、図28では、眼鏡用レンズを画像表示装置102本体の内部に一体化して構成していないが、眼鏡用のレンズを組み込んで画像表示装置102を構成してもよい。

【0116】また、側頭フレーム103にはスピーカ104が付設されており、画像観察と共に立体音響を聞くことができるようになっている。このようにスピーカ104を有する表示装置本体102には、映像音声伝達コード105を介してポータブルビデオカセット等の再生装置106が接続されており、観察者はこの再生装置106を図示のようにベルト箇所等の任意の位置に保持して、映像音響を楽しむことができるようになっている。図27の符号107は再生装置106のスイッチ、ボリューム等の調節部である。なお、画像表示装置本体10

2の内部には映像処理、音声処理回路等の電子部品を内蔵させてある。

【0117】なあ、コード105は先端をジャックにして、既存のビデオデッキ等に取り付け可能としてもよい。さらに、TV電波受信用チューナーに接続してTV鑑賞用としてもよいし、コンピュータに接続してコンピュータグラフィックスの映像や、コンピュータからのメッセージ映像等を受信するようにしてもよい。また、邪魔なコードを排斥するために、アンテナを接続して外部からの信号を電波によって受信するようにしてもよい。

【0118】さらに、本発明による観察光学系は、接眼光学系を左右何れか一方の眼前に配置した片眼用の頭部装着型画像表示装置に用いてもよい。図29にその片眼装着用の画像表示装置を観察者の頭部に装着（この場合は、左眼に装着）した状態を示す。この構成では、接眼光学系100と画像表示素子5からなる組1つからなる表示装置本体102が前フレーム108の対応する眼の前方位置に取り付けられ、その前フレーム108には左右に連続して図示のような側頭フレーム103が設けられており、表示装置本体102を観察者の片眼前に保持できるようになっている。その他の構成は図27、28の場合と同様であり、説明は省く。

【0119】次に、図30に本発明の画像観察光学系を電子カメラ40の接眼光学系59に組み込んだ構成の概念図を示す。この例の場合は、撮影光路上に配置された撮影用対物光学系48により形成された物体像がフィルター51を経てCCD49の撮像面50上に形成される。このCCD49で受光された物体像は、処理手段52を介し、液晶表示素子(LCD)5上に電子像として表示される。また、この処理手段52は、CCD49で撮影された物体像を電子情報として記録する記録手段61の制御も行なう。LCD5に表示された画像は、接眼光学系59を介して観察者の眼球Eに導かれる。この接眼光学系59は、本発明の上記各実施例と同様の構成（ここでは図1と同様の構成）を持つ偏心プリズム光学系とその射出瞳側に配置されたカバーレンズ91とからなる。またLCDの背後にはそれを照明するバックライト92が配置されている。

【0120】このように構成されたカメラ40は、撮影用対物光学系48、接眼光学系59を少ない光学部材で構成でき、高性能・低コスト化が実現できると共に、光学系全体を同一平面上に並べて配置できるため、この配置平面と垂直方向の厚みの薄型化が実現できる。

【0121】次に、図31に本発明による画像観察光学系を電子内視鏡の観察系の接眼光学系87に組み込んだ構成の概念図を示す。この例の場合、接眼光学系87は、本発明の上記各実施例と同様の形態（ここでは図1と同様の形態）の光学系を用いている。この電子内視鏡は、図31(a)に示すように、電子内視鏡71と、照明光を供給する光源装置72と、その電子内視鏡71に対

応する信号処理を行なうビデオプロセッサ73と、このビデオプロセッサ73から出力される映像信号を表示するモニター74と、このビデオプロセッサ73と接続され映像信号等に記録するVTRデッキ75、及び、ビデオディスク76と、映像信号を映像としてプリントアウトするビデオプリンタ77と、例えば、図27に示したような頭部装着型画像表示装置(HMD)78と共に構成されており、電子内視鏡71の挿入部79の先端部80と、その接眼部81は、図31(b)に示すように構成されている。

【0122】光源装置72から照明された光束は、ライトガイドファイバー束88を通って照明用対物光学系89により、観察部位を照明する。そして、この観察部位からの光が、カバー部材85を介して、観察用対物光学系82によって物体像として形成される。この物体像は、ローパスフィルター、赤外カットフィルター等のフィルター83を介してCCD84の撮像面上に形成される。さらに、この物体像は、CCD84によって映像信号に変換され、その映像信号は、図31(a)に示すビデオプロセッサ73により、モニター74上に直接表示されると共に、VTRデッキ75、ビデオディスク76中に記録され、また、ビデオプリンタ77から映像としてプリントアウトされる。また、HMD78の画像表示素子101(図28)に表示されHMD78の装着者に表示される。同時に、CCD84によって変換された映像信号は画像信号導伝手段93を介して接眼部81の液晶表示素子(LCD)5上に電子像として表示され、その表示像は本発明の画像観察光学系を構成する接眼光学系87を経て観察者の眼球Eに導かれる。

【0123】このように構成された内視鏡は、少ない光学部材で構成することができ、高性能・低コスト化が実現できる。

【0124】次に、本発明による画像観察光学系のHOEとして用いる回折素子とプリズムを配置するときの望ましい構成を図32に示す。図中、偏心プリズムPは、本発明の画像観察光学系中に含まれるプリズムである。いま、回折素子の面Cが、図のように四角形を形成するとき、偏心プリズムPに配置された面对称自由曲面の対称面Dが、この回折素子の面Cの四角形を形成する辺の少なくとも1つと平行になるように配置することが、美しい像形成の上で望ましい。

【0125】さらに、この回折素子の面Cが正方形や長方形といった4つの内角がそれぞれ約90°にて形成されている場合には、面对称自由曲面の対称面Dは、回折素子の面Cの互いに平行関係にある2辺に対して平行に配置され、この対称面Dが回折素子6の面Cを左右又は上下対称にさせる位置に一致するように構成することが好ましい。このように構成すれば、装置に組み込むときの組み込み精度が出しやすく、量産性に効果的である。

【0126】さらに、偏心プリズムPを構成する光学面

である第1面、第2面、第3面等の中、複数の面又は全ての面が対称自由曲面の場合には、複数の面又は全ての面の対称面が同一面Dの上に配置されるように構成することが、設計上も、収差性能上も望ましい。そして、この対称面Dと回折素子のパワーの対称面との関係は、上述と同様の関係にあることが望ましい。

*

$$0 < \phi_y (HOE, Fa) / \phi_y (Total) < 1 \quad \dots \dots (3)$$

$$-0.5 < \phi_y (HOE, Fb) / \phi_y (Total) < 0.5 \quad \dots \dots (4)$$

ただし、 $\phi_y (HOE, Fa)$ は HOE の像位置 Fa における y 方向のパワー、 $\phi_y (HOE, Fb)$ は HOE の像位置 Fb における y 方向のパワー、 $\phi_y (Total)$ は全系の y 方向のパワーである。

※

$$0.005 < \phi_y (HOE, Fa) / \phi_y (Total) < 0.4 \quad \dots \dots (5)$$

$$-0.2 < \phi_y (HOE, Fb) / \phi_y (Total) < 0.2 \quad \dots \dots (6)$$

ただし、 $\phi_y (HOE, Fa)$ は HOE の像位置 Fa における y 方向のパワー、 $\phi_y (HOE, Fb)$ は HOE の像位置 Fb における y 方向のパワー、 $\phi_y (Total)$ は全系の y 方向のパワーである。

【0130】(3) ブリズム光学系において、前記 HOE の X 方向のパワーがすべて正であることを特徴とする請求項 1～3、上記(1)、(2)のいずれかに記載の画像観察光学系。

【0131】(4) 反射面を 1 面以上持ちかつ正の屈折力を持つブリズムを有するとともに、前記 HOE が該ブリズムの面上に形成されていることを特徴とする請求項 1～3、上記(1)～(3)のいずれかに記載の画像観察光学系。

$$|\phi_y (HOE, F0) / \phi_y (Total)| \leq 0.25 \quad \dots \dots (7)$$

ただし、 $\phi_y (HOE, F0)$ は HOE の像位置 F0 における y 方向のパワー、 $\phi_y (Total)$ は全系の y 方向のパワーである。

☆

$$|\phi_y (HOE, F0) / \phi_y (Total)| \leq 0.10 \quad \dots \dots (8)$$

ただし、 $\phi_y (HOE, F0)$ は HOE の像位置 F0 における y 方向のパワー、 $\phi_y (Total)$ は全系の y 方向のパワーである。

◆

$$|\phi_y (HOE, F0) / \phi_y (Total)| \leq 0.025 \quad \dots \dots (9)$$

ただし、 $\phi_y (HOE, F0)$ は HOE の像位置 F0 における y 方向のパワー、 $\phi_y (Total)$ は全系の y 方向のパワーである。

◆

【0136】(9) 前記接眼光学系が、正の屈折力を持つブリズムと、HOE と、両面がほぼ平面で、かつ平行でない面からなる光学素子とを有することを特徴とする請求項 1～3、上記(1)～(5)のいずれかに記載の画像観察光学系。

【0137】(10) 前記両面がほぼ平面で、かつ平行でない面からなる光学素子が、前記画像表示素子と前記正の屈折力を持つブリズムとの間に配置されていることを特徴とする上記(9)に記載の画像観察光学系。

【0138】(11) 前記両面がほぼ平面で、かつ平行でない面からなる光学素子が、観察者の瞳と前記正の屈

* 【0127】以上説明したように、本発明の画像観察光学系は、特許請求の範囲に記載された特徴のほかに下記に示すような特徴も備えている。

【0128】(1) 次の条件式(3)、(4)を同時に満足することを特徴とする請求項 2 に記載の画像観察光学系。

※ 【0129】(2) 次の条件式(5)、(6)を同時に満足することを特徴とする上記(1)に記載の画像観察光学系。

★ 【0132】(5) 反射面を 1 面以上持ちかつ正の屈折力を持つブリズムを有するとともに、前記 HOE が前記画像表示素子と観察者の瞳との間において回転非対称な倍率の色収差を補正するように回転非対称なパワーで形成されていることを特徴とする請求項 1～3、上記(1)～(4)のいずれかに記載の画像観察光学系。

【0133】(6) 正の屈折力を持つブリズムを有するとともに、前記画像表示素子と射出瞳位置との間に、少なくとも 2 枚の HOE を有し、かつ、対称面と画像表示面との交線における線分の中心の像位置を F0 としたとき、次の条件式(7)を満足することを特徴とする請求項 1～3、上記(1)～(5)のいずれかに記載の画像観察光学系。

$$|\phi_y (HOE, F0) / \phi_y (Total)| \leq 0.25 \quad \dots \dots (7)$$

☆ 【0134】(7) 次の条件式(8)を満足することを特徴とする上記(6)に記載の画像観察光学系。

$$|\phi_y (HOE, F0) / \phi_y (Total)| \leq 0.10 \quad \dots \dots (8)$$

◆ 【0135】(8) 次の条件式(9)を満足することを特徴とする上記(7)に記載の画像観察光学系。

【0139】(12) 前記 HOE が防塵部材で覆われていることを特徴とする請求項 1～3、上記(1)～(11)のいずれかに記載の画像観察光学系。

【0140】(13) 前記防塵部材が、画像観察光学系を収納する箱体と、画像観察光学系からの射出光を透過させるカバーを備えていることを特徴とする上記(1)～(2)に記載の画像観察光学系。

【0141】(14) 上記(9)～(11)のいずれかに記載の前記両面がほぼ平面で、かつ平行でない面からなる光学素子が上記(13)に記載のカバーを兼ねていることを特徴とする画像観察光学系。

【0142】(15) 前記 HOE が前記両面がほぼ平面

41

で、かつ平行でない面からなる光学素子に貼りつけられていることを特徴とする上記(9)又は(14)に記載の画像観察光学系。

【0143】(16)前記HOEが2枚の前記両面がほぼ平面で、かつ平行でない面からなる光学素子の間に挟まれていることを特徴とする上記(9)又は(14)に記載の画像観察光学系。

【0144】(17)請求項1～3、上記(1)～(16)のいずれかに記載の前記画像観察光学系を備えた本体部と、前記本体部を観察者の顔面に保持するために観察者の側頭部に装着されるように構成された支持部材とを備えたことを特徴とする頭部装着型画像表示装置。

【0145】(18)前記本体部は、請求項1～3、上記(1)～(17)のいずれかに記載の前記画像観察光学系と、眼鏡用の光学系とを一体的に備えていることを特徴とする頭部装着型画像表示装置。

【0146】(19)前記支持部材が、眼鏡の側頭フレームに着脱可能に構成されていることを特徴とする上記(17)に記載の頭部装着型画像表示装置。

【0147】(20)前記観察光学系が、それぞれ左右1組ずつ並設され両眼視用に構成されていることを特徴とする上記(17)～(19)に記載の頭部装着型画像表示装置。

【0148】

【発明の効果】以上、本発明によれば、画像表示装置として携帯電話や携帯情報端末に用いることができる程度に小型化することができ、かつ、倍率色収差を抑えて高精細化、広画角化することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第2実施例の画像観察光学系の光軸を含むY-Z断面図である。

【図2】第2実施例の画像観察光学系の横収差図である。

【図3】本発明の第1実施例の画像観察光学系の光軸を含むY-Z断面図である。

【図4】第1実施例の画像観察光学系の横収差図である。

【図5】本発明の第3実施例の画像観察光学系の光軸を含むY-Z断面図である。

【図6】第3実施例の画像観察光学系の横収差図である。

【図7】本発明の第4実施例の画像観察光学系の光軸を含むY-Z断面図である。

【図8】第4実施例の画像観察光学系の横収差図である。

【図9】本発明の各実施例の画像観察光学系に対する第1比較例にかかる従来の画像観察光学系の光軸を含むY-Z断面図である。

【図10】第1比較例の画像観察光学系の横収差図である。

42

【図11】本発明の各実施例の画像観察光学系に対する第2比較例にかかる従来の画像観察光学系の光軸を含むY-Z断面図である。

【図12】第2比較例の画像観察光学系の倍率色収差図である。

【図13】本発明の画像観察光学系に防塵部材を設けた一例を示す断面図である。

【図14】本発明の画像観察光学系に防塵部材を設けた一例を示す断面図である。

【図15】本発明の画像観察光学系にクサビ型プリズムを用いる場合の変形例を示す要部説明図であり、(a)はクサビ型プリズムの片面にHOEを貼りつけた形態、(b)はHOEを2つのクサビ型プリズムで挟んだ形態を示す。

【図16】本発明の画像観察光学系のプリズム部材に適用可能なプリズムの一例を示す図である。

【図17】本発明の観察光学系のプリズム部材に適用可能なプリズムの他の例を示す図である。

【図18】本発明の観察光学系のプリズム部材に適用可能なプリズムのさらに他の例を示す図である。

【図19】本発明の観察光学系のプリズム部材に適用可能なプリズムのさらに他の例を示す図である。

【図20】本発明の観察光学系のプリズム部材に適用可能なプリズムのさらに他の例を示す図である。

【図21】本発明の観察光学系のプリズム部材に適用可能なプリズムのさらに他の例を示す図である。

【図22】本発明の観察光学系のプリズム部材に適用可能なプリズムのさらに他の例を示す図である。

【図23】本発明の観察光学系のプリズム部材に適用可能なプリズムのさらに他の例を示す図である。

【図24】本発明の観察光学系のプリズム部材に適用可能なプリズムのさらに他の例を示す図である。

【図25】本発明の観察光学系のプリズム部材に適用可能なプリズムのさらに他の例を示す図である。

【図26】本発明の観察光学系のプリズム部材に適用可能なプリズムのさらに他の例を示す図である。

【図27】本発明の観察光学系を用いた頭部装着型で両眼装着用の画像表示装置を観察者の頭部に装着した状態を示す図である。

【図28】図27の断面図である。

【図29】本発明の観察光学系を用いた頭部装着型で片眼装着用の画像表示装置を観察者の頭部に装着した状態を示す図である。

【図30】本発明の画像観察光学系を適用した電子カメラの概念図である。

【図31】本発明の画像観察光学系を適用した電子内視鏡の概念図である。

【図32】本発明によるHOEとプリズムを配置するときの望ましい構成を示す図である。

【図33】回折素子のパワー分布を示す説明図である。

50

43

【図34】自由曲面を示す説明図である。

【図35】本発明に用いるHOEの説明図であり、(a)はプリズムに貼った状態、(b)は横方向からみたときのパワー、(c)は上からみたときのパワーを示す。

【図36】本発明におけるHOEを定義するための原理図である。

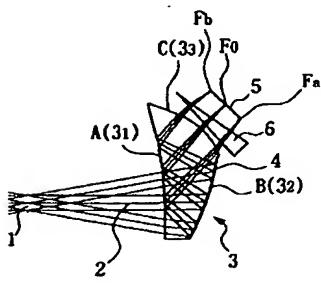
【図37】本発明におけるHOEのローカルパワーを説明するための説明図である。

【符号の説明】

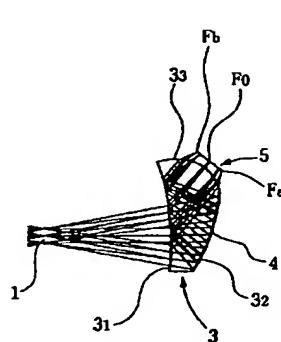
- 1, 3 1 射出瞳
- 2 軸上主光線
- 3 プリズム
- 3₁ 第1面
- 3₂ 第2面
- 3₃ 第3面
- 4 (反射型) HOE
- 5, 10 1 LCD
- 6 クサビ型プリズム
- 7, 8 透過型HOE
- 9 DOE
- 10 防塵部材
- 11 カバー部材
- 32, 4 1 第1面
- 33, 4 2 第2面
- 34, 4 3 第3面
- 35, 4 4 第4面
- 4 8 撮影用対物光学系
- 4 9, 8 4 CCD
- 5 0 撮像面
- 5 1 フィルター
- 5 2 処理手段
- 5 9 接眼光学系

- * 7 1 電子内視鏡
- 7 2 光源装置
- 7 3 ビデオプロセッサ
- 7 4 モニター
- 7 5 VTRデッキ
- 7 6 ビデオディスク
- 7 7 ビデオプリンタ
- 7 8 頭部装着型画像表示装置(HMD)
- 7 9挿入部
- 10 8 0 先端部
- 8 1 接眼部
- 8 2 観察用対物光学系
- 8 3 フィルター
- 8 7, 10 0 接眼光学系
- 8 8 ライトガイドファイバー束
- 8 9 照明用対物光学系
- 9 0 結像面
- 9 2 バックライト
- 9 3 画像信号導伝手段
- 20 10 2 画像表示装置(本体)
- 10 3 側頭フレーム
- 10 4 スピーカ
- 10 5 映像音声伝達コード
- 10 6 再生装置
- 10 7 調節部
- 10 8 前フレーム
- C HOEの面
- D 面対称自由曲面の対称面
- E 観察者の眼球
- 30 P 偏心プリズム
- P 1 第1プリズム
- * P 2 第2プリズム

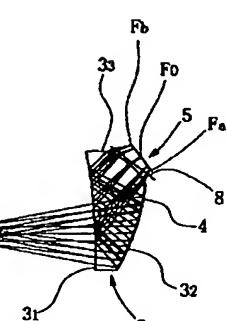
【図1】



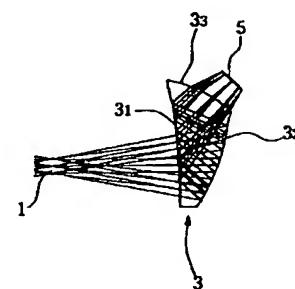
【図3】



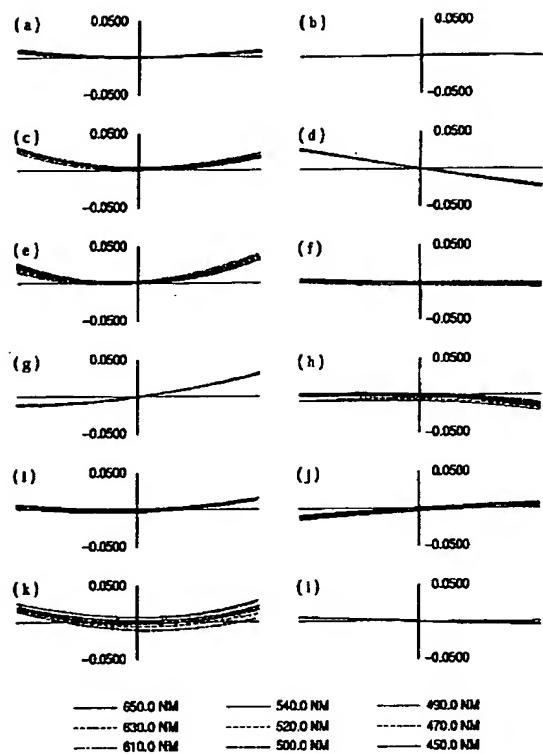
【図7】



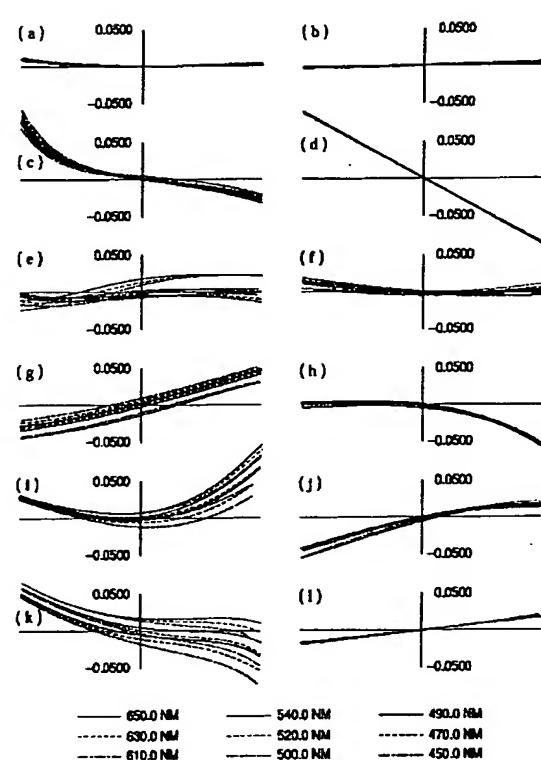
【図9】



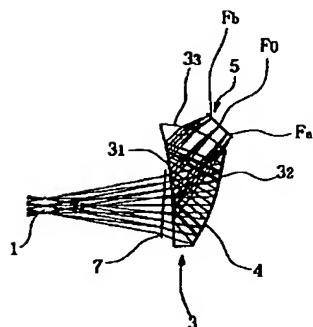
【図2】



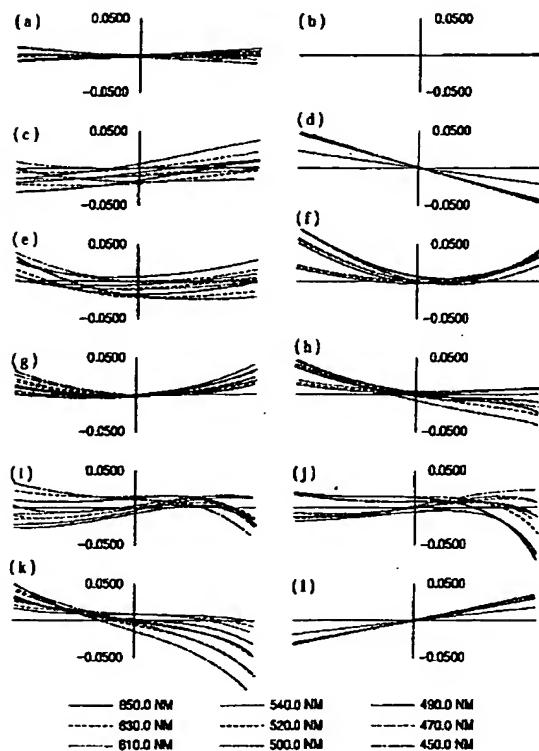
【図4】



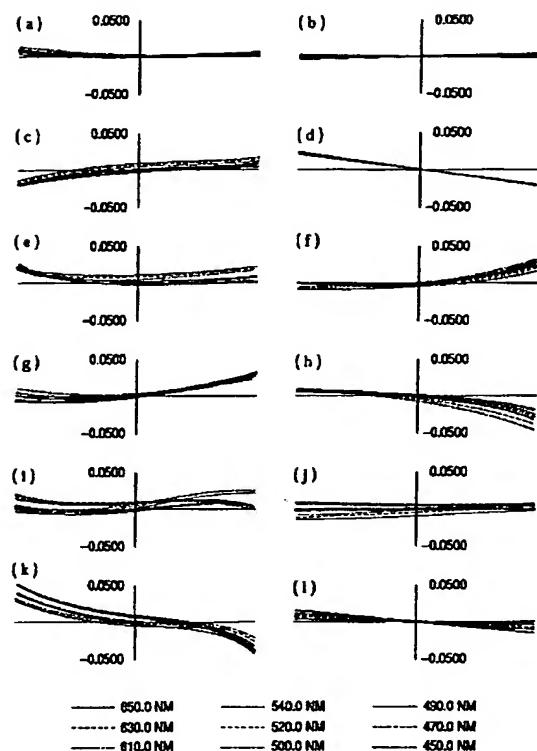
【図5】



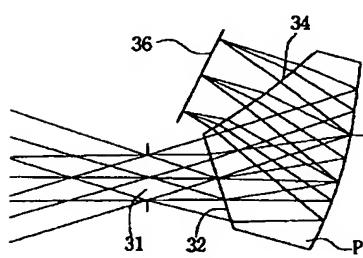
【図6】



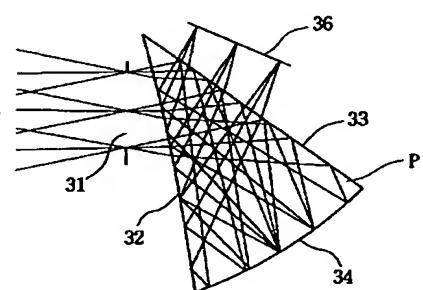
【図8】



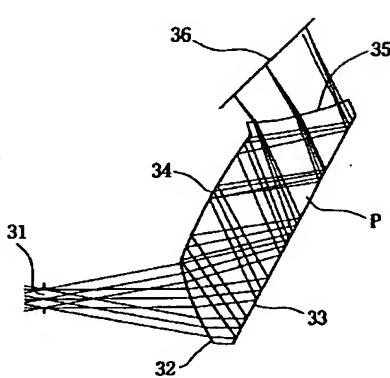
【図16】



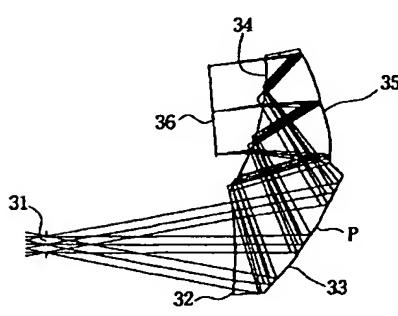
【図17】



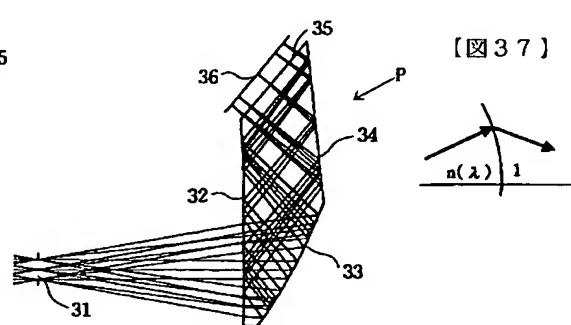
【図19】



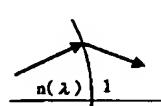
【図18】



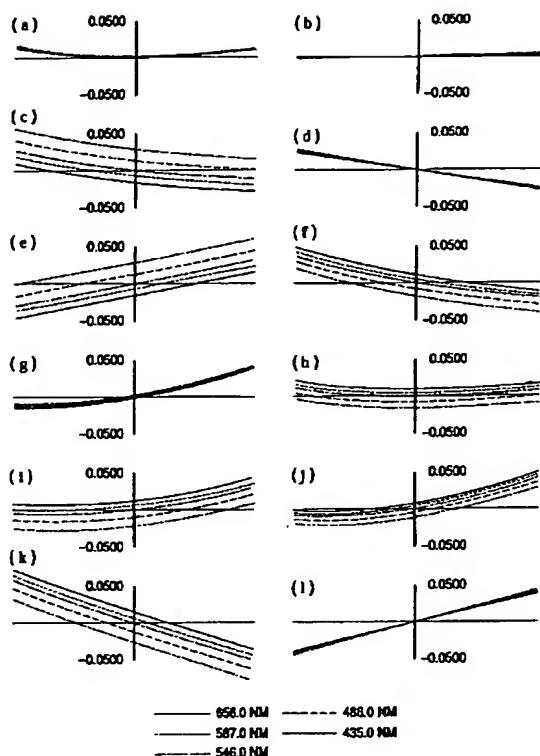
【図23】



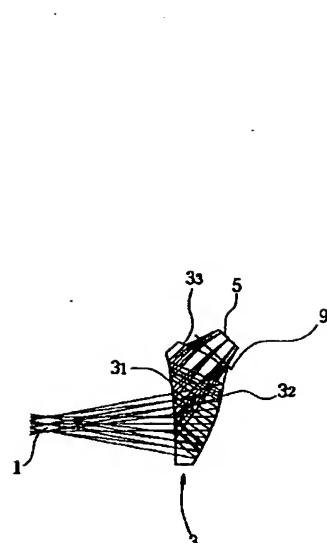
【図37】



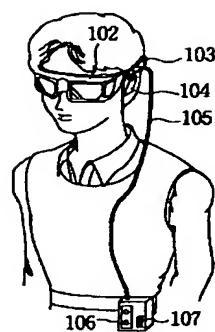
【図10】



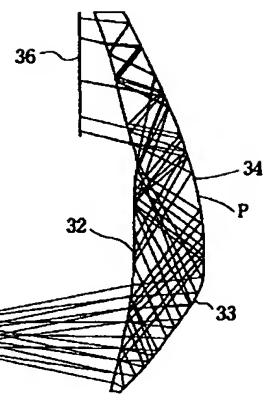
【図11】



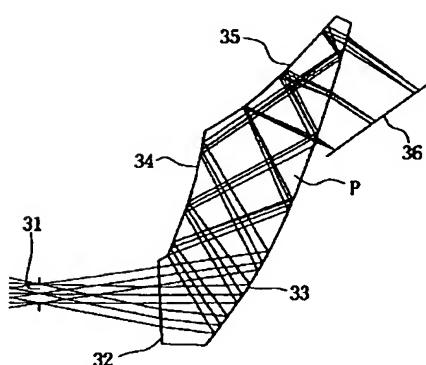
【図27】



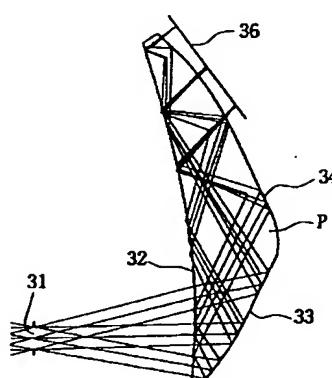
【図22】



【図20】

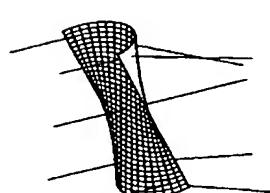
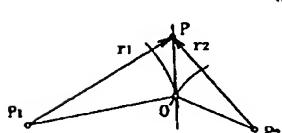


【図21】

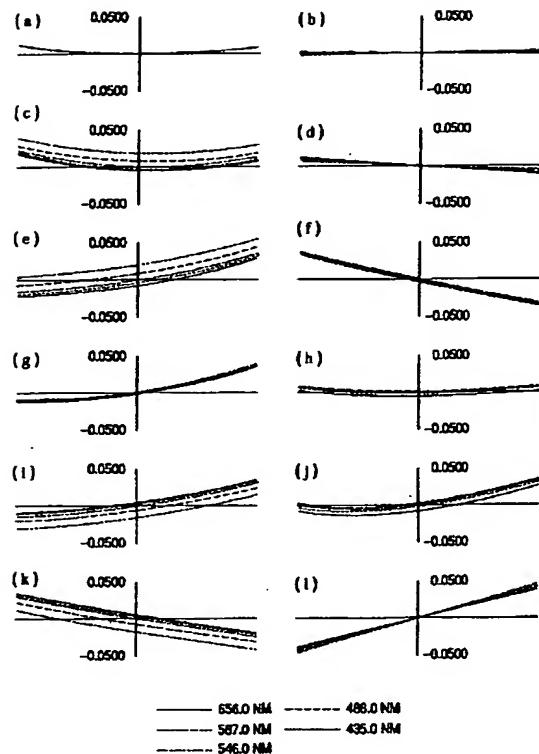


【図34】

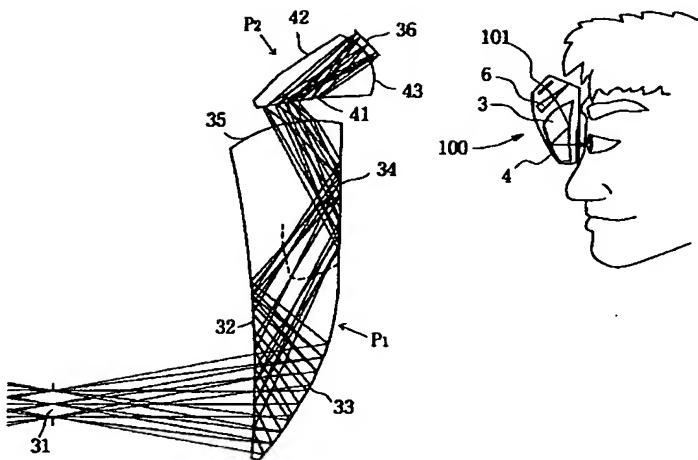
自由曲面

(例) 左図で媒質が空気n=1の場合
 $\Phi_0'' = -r_2 - n < 0$ 

【図12】



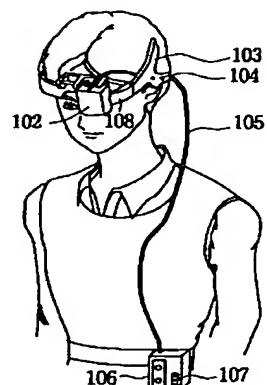
【図24】



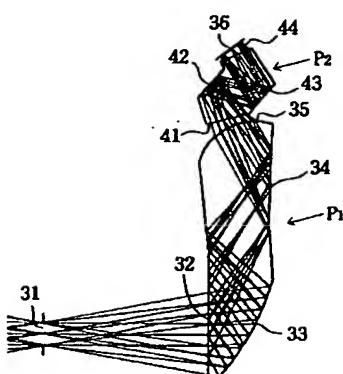
【図28】



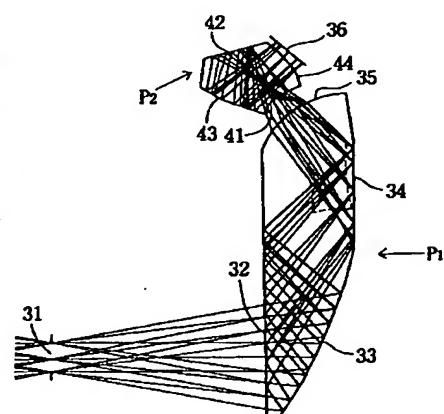
【図29】



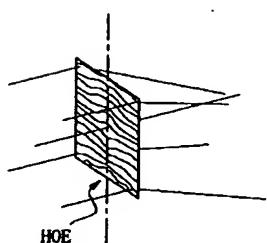
【図25】



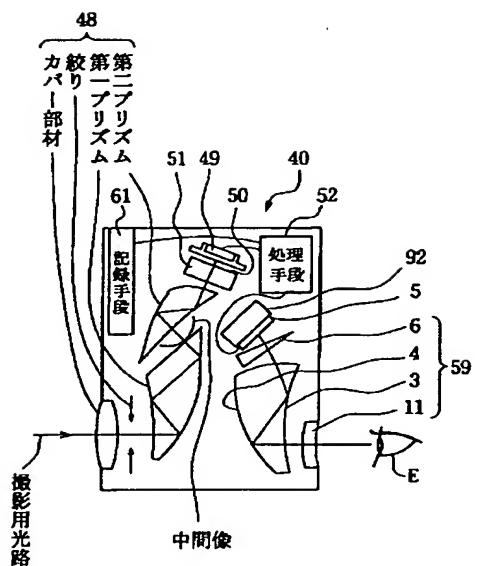
【図26】



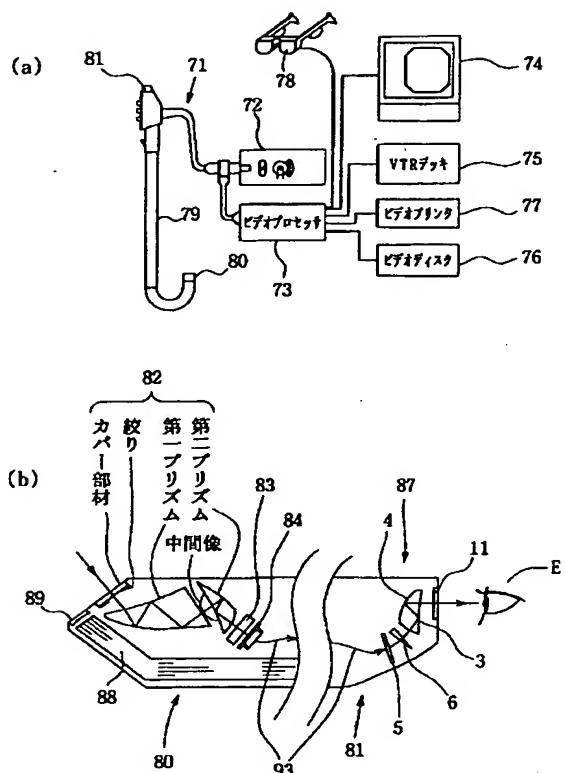
【図33】



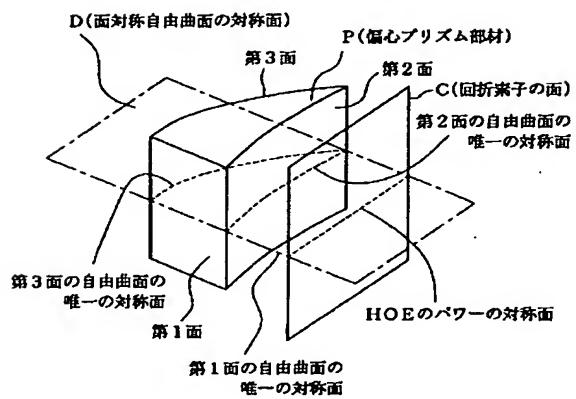
【図30】



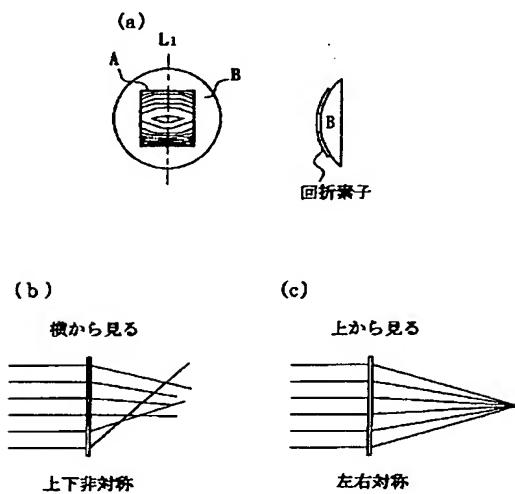
【図31】



【図32】



【図35】



【手続補正書】

【提出日】平成12年12月14日(2000.12.14)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0002

【補正方法】変更

【補正内容】

【0002】

【従来の技術】近年、個人が大画面の画像を楽しむことを目的として、画像表示装置、特に、頭部や顔面に装着するタイプの画像表示装置の開発が盛んになされている。また、近年、携帯電話の普及や携帯情報端末の普及に伴い、携帯電話や携帯情報端末の画像や文字データを大画面で見たいというニーズが高まっている。画像表示装置に用いる従来の画像観察光学系としては、特開平7-333551号や特開平8-234137号に記載のものがある。これらのものは、反射作用を有する面に例えば、アナモルフィック面やトーリック面、さらには自由曲面などの回転非対称な面形状を持つプリズムを使用して、像の歪み、像面彎曲、非点収差を補正している。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0071

【補正方法】変更

【補正内容】

【0071】第1実施例

図3は本発明の第1実施例の画像観察光学系の光軸を含むY-Z断面図、図4は本実施例の画像観察光学系の横収差図である。第1実施例の画像観察光学系は、接眼光学系が、正の屈折力を有するプリズム3と、反射型のHOE4とで構成されている。プリズム3は、第1面3₁～第3面3₃を備え、第1面3₁及び第3面3₃がそれぞれ回転非対称な自由曲面に、第2面3₂が球面に形成されている。そして、第1面3₁が同一面上に第1の反射面と射出面とを備えた面として、第2面3₂が第2の反射面として、第3面3₃が入射面としてそれぞれ構成されている。HOE4は、プリズム3の第2面3₂に貼り付けられている。HOE7は、射出瞳1とプリズム3の第1面3₁との間に設けられている。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0077

【補正方法】変更

【補正内容】

【0077】第2実施例

図1は本発明の第2実施例の画像観察光学系の光軸を含むY-Z断面図、図2は本実施例の画像観察光学系の横収差図である。第2実施例の画像観察光学系では、接眼光学系は、正の屈折力を有するプリズム3と、反射型のHOE4と、クサビ型プリズム（ウェッジプリズム）6

とで構成されている。プリズム3は、第1面3₁～第3面3₃を備え、第1面3₁及び第3面3₃がそれぞれ回転非対称な自由曲面に、第2面3₂が球面に形成されている。そして、第1面3₁が同一面上に第1の反射面と射出面とを備えた面として、第2面3₂が第2の反射面として、第3面3₃が入射面としてそれぞれ構成されている。HOE4は、プリズム3の第2面3₂に貼り付けられている。クサビ型プリズム6は、両面が平面で、かつ平行でない面に形成されており、LCD5とプリズム3の第3面3₃との間に設けられている。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0082

【補正方法】変更

【補正内容】

【0082】第3実施例

図5は本発明の第3実施例の画像観察光学系の光軸を含むY-Z断面図、図6は本実施例の画像観察光学系の横収差図である。第3実施例の画像観察光学系では、接眼光学系は、正の屈折力を有するプリズム3と反射型のHOE4と、透過型のHOE7とで構成されている。プリズム3は、第1面3₁～第3面3₃を備え、第1面3₁及び第3面3₃がそれぞれ回転非対称な自由曲面に、第2面3₂が球面に形成されている。そして、第1面3₁が同一面上に第1の反射面と射出面とを備えた面として、第2面3₂が第2の反射面として、第3面3₃が入射面としてそれぞれ構成されている。HOE4は、プリズム3の第2面3₂に貼り付けられている。HOE7は、射出瞳1とプリズム3の第1面3₁との間に設けられている。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0087

【補正方法】変更

【補正内容】

【0087】第4実施例

図7は本発明の第4実施例の画像観察光学系の光軸を含むY-Z断面図、図8は本実施例の画像観察光学系の横収差図である。第4実施例の画像観察光学系では、接眼光学系は、正の屈折力を有するプリズム3と反射型のHOE4と、透過型のHOE8とで構成されている。プリズム3は、第1面3₁～第3面3₃を備え、第1面3₁及び第3面3₃がそれぞれ回転非対称な自由曲面に、第2面3₂が球面に形成されている。そして、第1面3₁が同一面上に第1の反射面と射出面とを備えた面として、第2面3₂が第2の反射面として、第3面3₃が入射面としてそれぞれ構成されている。HOE4は、プリズム3の第2面3₂に貼り付けられている。HOE8は、LCD5とプリズム3の第3面3₃との間に設けられている。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0088

【補正方法】変更

【補正内容】

【0088】そして、LCD5から射出した光が、HOE8で回折されて透過した後、第3面3₁よりプリズム内に入射し、第1面3₁で反射し、第2面3₁に貼られたHOE4で回折されて反射し、第1面3₁よりプリズム外に射出した後、途中で結像することなく射出瞳1の位置において図示しない観察者の眼球の網膜上に結像するように構成されている。なお、本実施例では、LCDは、大きさが0.55インチタイプのものを使用している。また、観察画角は、水平画角30°、水平画角22.8°、瞳径4.0mmである。また、観察波長範囲は、B:470nm、G:520nm、R:630nmに対してそれぞれ±20nmである。

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0092

【補正方法】変更

【補正内容】

【0092】

【比較例】次に、本発明の比較例を示す。なお、比較例における断面図及び横収差図は、上記各実施例に準じている。

第1比較例

図9は本発明の第1比較例の画像観察光学系の光軸を含むY-Z断面図、図10は本比較例の画像観察光学系の横収差図である。第1比較例の画像観察光学系では、接眼光学系は、正の屈折力を有するプリズム3だけで構成されている。プリズム3は、第1面3₁～第3面3₁を備え、いずれの面もそれ自身回転非対称な自由曲面に形成されている。そして、第1面3₁が同一面上に第1の反射面と射出面とを備えた面として、第2面3₁が第2の反射面として、第3面3₁が入射面としてそれぞれ構成されている。

【手続補正8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0094

【補正方法】変更

【補正内容】

【0094】第2比較例

図11は本発明の第2比較例の画像観察光学系の光軸を含むY-Z断面図、図12は本比較例の画像観察光学系の横収差図である。第2比較例の画像観察光学系では、接眼光学系は、正の屈折力を有するプリズム3とDOE9などで構成されている。プリズム3は、第1面3₁～第3面3₁を備え、いずれの面もそれ自身回転非対称な自由曲面に形成されている。そして、第1面3₁が同一面上に第1の反射面と射出面とを備えた面として、第2面

3₁が第2の反射面として、第3面3₁が入射面としてそれぞれ構成されている。DOE9は、LCD5とプリズム3の第3面3₁との間に設けられている。

【手続補正9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0097

【補正方法】変更

【補正内容】

【0097】なお、上記各実施例におけるHOEは、防塵部材で覆われているとよい。また、図5の実施例のような構成の場合、図13に示すように、防塵部材10の一部を構成するガラス、プラスチックなどの透明部材で構成されたカバー部材11の内側にHOE7を貼り付けてよい。また、図1の実施例のような構成に用いられるクサビ型プリズムは、射出瞳1とプリズム3との間に配置してもよく、その場合は図14に示すように、クサビ型プリズム6に防塵カバー11を兼用させてもよい。さらに、本発明で用いるHOEは、プリズムに貼り付ける以外に、図15(a)に示すようにクサビ型プリズムの平らな面に貼り付けてよい。また、図15(b)に示すように、HOEを2つのクサビ型プリズムで挟んで上下を封止材で封着してもよい。

【手続補正10】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0104

【補正方法】変更

【補正内容】

【0104】図21の場合は、プリズムPは、第1面3₂と、第2面3₃と、第3面3₄とを備え、第1面3₂が、第1の反射面と第3の反射面と射出面とを兼ね備えた面として、第2面3₃が第4の反射面として、第3面3₄が入射面と第2の反射面とを兼ね備えた面としてそれぞれ構成されている。そして、プリズムPは、LCD3₆から射出した光が第3面3₄に備わる入射面で屈折してプリズム内に入射し、第1面3₂に備わる第1の反射面で反射した後、第3面3₄に備わる第2の反射面で反射し、第1面3₂に備わる第3の反射面で反射し、第2面3₃で反射した後、第1面3₂に備わる射出面で屈折してプリズム外に射出し、射出瞳3₁の位置において図示しない観察者の眼球の網膜上に結像するように構成されている。

【手続補正11】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0105

【補正方法】変更

【補正内容】

【0105】図22の場合は、プリズムPは、第1面3₂と、第2面3₃と、第3面3₄とを備え、第1面3₂が入射面と第2の反射面と、第4の反射面と射出面とを兼ね備えた面として、第2面3₃が第5の反射面とし

て、第3面34が第1の反射面と第3の反射面とを兼ね備えた面としてそれぞれ構成されている。そして、プリズムPは、LCD36から射出した光が第1面32に備わる入射面で屈折してプリズム内に入射し、第3面34に備わる第1の反射面で反射した後、第1面32に備わる第2の反射面で反射し、第3面34に備わる第3の反射面で反射した後、第1面32に備わる第4の反射面で反射し、第2面33で反射した後、第1面32に備わる射出面で屈折してプリズム外に射出し、射出瞳31の位置において図示しない観察者の眼球の網膜上に結像するように構成されている。

【手続補正12】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0119

【補正方法】変更

【補正内容】

【0119】次に、図30に本発明の画像観察光学系を電子カメラ40の接眼光学系59に組み込んだ構成の概念図を示す。この例の場合は、撮影光路上に配置された撮影用対物光学系48により形成された物体像がフィルター51を経てCCD49の撮像面50上に形成される。このCCD49で受光された物体像は、処理手段52を介し、液晶表示素子(LCD)5上に電子像として表示される。また、この処理手段52は、CCD49で撮影された物体像を電子情報として記録する記録手段61の制御も行なう。LCD5に表示された画像は、接眼光学系59を介して観察者の眼球Eに導かれる。この接眼光学系59は、本発明の上記各実施例と同様の構成 *

* (ここでは図1と同様の構成)を持つ偏心プリズム光学系とその射出瞳側に配置されたカバーレンズ11とからなる。またLCDの背後にはそれを照明するバックライト92が配置されている。

【手続補正13】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0122

【補正方法】変更

【補正内容】

【0122】光源装置72から照明された光束は、ライトガイドファイバー束88を通じて照明用対物光学系89により、観察部位を照明する。そして、この観察部位からの光が、カバー部材を介して、観察用対物光学系82によって物体像として形成される。この物体像は、ローパスフィルター、赤外カットフィルター等のフィルター83を介してCCD84の撮像面上に形成される。さらに、この物体像は、CCD84によって映像信号に変換され、その映像信号は、図31(a)に示すビデオプロセッサ73により、モニター74上に直接表示されると共に、VTRデッキ75、ビデオディスク76中に記録され、また、ビデオプリンタ77から映像としてプリントアウトされる。また、HMD78の画像表示素子101(図28)に表示されHMD78の装着者に表示される。同時に、CCD84によって変換された映像信号は画像信号導伝手段93を介して接眼部81の液晶表示素子(LCD)5上に電子像として表示され、その表示像は本発明の画像観察光学系を構成する接眼光学系87を経て観察者の眼球Eに導かれる。

フロントページの続き

(51)Int.C1.⁷ 識別記号
 G 0 9 F 9/00 3 5 8
 H 0 4 N 5/225

5/64 5 1 1
 7/18

F I	テマコード(参考)
G 0 9 F 9/00	3 5 8 5 G 4 3 5
H 0 4 N 5/225	D
	B
5/64	5 1 1 A
7/18	M

F ターム(参考) 2H042 CA01 CA12 CA17
 2H049 CA06 CA09 CA11 CA17
 2H087 KA23 LA11 RA41 RA45 RA46
 TA01
 SC022 AA08 AA13 AC02 AC09 AC51
 SC054 AA01 CA04 EA01 GA01 GA02
 GA05 GB01 HA12
 SG435 AA01 AA18 BB00 BB16 DD02
 CG01 GG03 LL07

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- BLACK BORDERS**
- IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- FADED TEXT OR DRAWING**
- BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- SKEWED/SLANTED IMAGES**
- COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- GRAY SCALE DOCUMENTS**
- LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.